



# 報 同 窓 会 工 会

## 2006

### 校 歌

嶺は秀づる磐梯山  
水は湛うる猪苗代  
これぞ乾坤秀霊の  
精気鍾り成る処

明治三十七春なかば  
礎堅くきずかれて  
星霜ここに幾かえり  
平和の覇者を育みぬ

身には白虎の粋を享け  
鶴を徽章に雄々しくも  
至誠勤労一すじに  
進む健児の意気高し

時つ嶺は嶮しくも  
寄せ来る浪は高くとも  
これ奮闘の活舞台  
これぞ我等の天地なる

作詞 吉田智 山村彌久馬  
作曲 新潟師範学校

盛夏の候 会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私ごとですが会長職として平成15年10月より丸3年が経過しようとしています。短い期間ではありましたが、会長職として学校のため、同窓のために身を粉にして努めて参りました。しかし、前同窓会会長吉田一榮氏は25年間の永きにわたり会長職を完遂され、この間、八〇・九〇・一〇〇周年記念事業の実行委員長として采配を振るわれました。この間、まずは同窓会の事を一番に考え、各支部とのパイプ役を務めてまいった次第であります。また、PTA会長として7年間、計32年間の母校に対する思いははかりしれないものがあります。長い間ごくろうさまでした。本部同窓会といたしましては、その御恩に報いるため胸像を建立して形に表そうと考え、設立実行委員会を立ち上げ、今日の運びとなりました。

これにともないまして会員の皆様にご寄附を仰ぎながら遂行してまいりたいと思います。ご支援・ご協力をお願いいたします。



『吉田先輩の偉業を

讃えたい』

同窓会長 梅津正夫

本会の事業といたしましては『松江賞』の30年ぶりの復活、中庭にある胸像2体の修復。また会議等開催する時に不自由をしていました鶴翔会館の改装工事・テンプルの設置。また、4月には役員6名松江春次翁の銅像を訪ねてサイパンへ行ってきました。サイパン市長・マリアナス高校へ表敬訪問をしてまいりました。

ホットな話題としては、東京会工会より一昨年桜苗木を植樹された4本の木から数輪の花が咲きました。東京会工会の思いが母校につたわり交流の場となればと考えております。

会報2005の協力金におきましては、多くの会員の皆様よりご支援・ご協力をいただきましたが、会の運営に役立てたいと思います。いろいろ会員の皆様にはご依頼する事ばかりで恐縮に存じますが、母校の発展のためと考えてご支援・ご協力ください。

最後になりましたが、会員諸兄のご健康とご多幸をお祈りしご挨拶いたします。





卒業生の進路

100%実現

校長 熊田良治

今春の卒業式は感動的でした。卒業証書授与では、卒業生一人ひとりが保護者に届けとばかりに元氣よく大きな声で返事をし、背筋を伸ばして立った雄姿に会工を卒業する誇りが満ち、式場全体に全校生のやる気が張りつめ、最後の校歌斉唱は会場のガラスを揺らすほどの勢いがありました。そして、5月中旬に高体連会津地区大会の応援に出かけた時のことですが、体育館やグラウンドに会工の校歌・応援歌がこだましていました。母校の名誉と自身の誇りをかけて必死に頑張る会工生の姿に感涙の思いでした。文武両道の精神で人格の完成を目指す会工生の姿を頼もしく感じました。さて、会工の校長として就任以来3年目を迎えました。定年まであと2年、会工で教員としての最終章を迎えます。冒頭のように、会工の建学の心である「人格教育」を実践し、会工卒業を誇りにできる生徒諸君を、同窓生の仲間として送り出したいと念願しながら、校長としての職責を果たす覚悟です。どうぞ宜しくお願いします。

本校の教育目標は「人格の完成、社会性の涵養、真理の探究、工業技術の習熟、健康の保持増進」です。この目標を達成するために「文武両道」、「至誠勤労」の行動を校是としています。また、本校は、明治35年（1902年）に「福島県立工業学校」として開学以来、世紀を超え、一貫して「ものづくり魂」を受け継ぎ、幾多の先輩諸氏が全国で活躍し、本校の名声を高めてきました。現在本校は、文部科学省の「目指せセペシャリスト事業」の研究校（スーパー専門校）の指定を受けて2年目になります。スーパー専門校としての研究期間は3年間で、研究テーマは「窯変天目茶碗の制作をおとしたセペシャリスト育成への挑戦」です。

セラミック科を中心に校内組織を立ち上げ、全学科をあげてこの研究に取り組んでおります。研究の成果にご期待下さい。

ついでに披露しますと、本校の最大の特徴である「ものづくり教育」の成果は、「福島県高校生ものづくりコンテスト2005」の旋盤作業部門優勝・電子機器組立部門準優勝や、全国電動カート総合優勝、資格取得者の大幅増等々に現れています。

そして、昨年度の最大の成果は、卒業した3年生の進路100%実現です。就職162名全員内定、進学153名全員合格は、生徒諸君の手柄であり、学校の誇りであります。

昨年度も、郡山会工を皮切りに県内外の同窓会に出席させていただきました。いずれの会も、若い世代の後継者育成が同窓会の課題となっています。その中で、坂下会工では、坂下地区PTAと一体になって入学祝や卒業記念品を送る活動をしています。若い卒業生が地元で活躍する機会をつくるという意図で、素晴らしい取り組みの好例と感じました。

最後になりますが、同郷・異郷を問わず全国の同窓生が、母校の動静や後輩達の活躍に熱い声援を送って戴いていることを肌で感じております。校長として、皆様の声を学校経営に生かすことが、会工の歴史と伝統を守り、会工教育の充実発展に繋がると信じています。皆さんの忌憚のないご意見をお寄せください。

秋の会工祭で、多くの同窓生の皆様にお会いできることを楽しみにしております。校長室にぜひお立ち寄り下さい。そして会工談義に花を咲かせましょう。

同窓生の皆様のご健勝とご多幸を会津の学舎からお祈り申し上げます。

同窓生の皆様のご健勝とご多幸を会津の学舎からお祈り申し上げます。

同窓会総会

会工同窓会総会



関連記事

本部同窓会総会 平成17年10月15日

同窓会事業報告

- ▶平成17年
10月6日 本部役員会 米熊
10月8日 美修会発起総会
10月15日 本部同窓会総会・若松会工総会 ホテルニューパレス(感謝状贈呈3名)
10月28日 猪苗代会工総会
11月12日 電友会総会
11月12日 定期演奏会への協力
11月15日 鶴翔会館管理運営委員会に出席 委員として
11月17日 全国セラミック教育研究大会 梅津会長、吉田顧問 2名出席
11月18日 三役会
11月20日 表彰委員会(松江賞)
11月22日 本校職員クラブ主催祝賀会役員 4名出席
11月25日 本部役員会
12月24日 鶴翔会館改装工事完了
▶平成18年
1月18日 本部役員会 本校応接室
1月27日 会津会工新年会 米熊
2月5日 鶴翔会館内に長テーブル8台寄贈
2月8日 表彰委員会
2月25日 建友会総会
2月27日 松江春次翁・鈴木善九郎翁胸像2体修復一山形市南工房・岩沢石材店
2月28日 松江賞表彰式 吉田一榮松江奨学会理事長 梅津会長 手代木代表副会長 若狭幹事長 五十嵐PTA会長 事務局
2月28日 同窓会入会式 28名出席
3月1日 卒業式
職員クラブ主催卒業式祝賀会 3名出席
3月4日 市長との懇談会 役員4名出席
3月5日 松江春次翁立像の台座・プレート寄贈 インテリア科主任 小関栄助先生 機械科職員 岩田善一先生
3月6日 三役会
3月23日 東京会工より桜苗木〔河津桜〕20本植樹2回目
3月22日 ペイオフ関係で財産積金整理・幹事長と事務局
3月27日 本校職員クラブ主催送別会 役員4名出席
4月7日 本校職員クラブ主催送別会 役員4名出席
4月20日 本校入学式 会長ほか 7名出席
4月13日 体育文化振興会へ助成
4月14日 創立記念講演会 五十嵐睦氏(昭和18年機械科卒業と囲む会)

- 4月15日 サイパン・松江春次翁をたずねる会 役員6名参加
4月19日 胸像建立に関する三役会
4月20日 若松会工総会役員会 3名出席
4月23日 胸像建立に関する三役会
5月10日 吉田一榮氏胸像建立準備委員会 役員会・鶴翔会館にて 懇談会 米熊
5月16日 郡山会工総会
5月20日 東海会工総会
6月4日 胸像建立準備委員会 応援室にて 梅津会長・熊田校長・PTA会長ほか 12名出席
6月6日 臨時役員会・鶴翔会館にて 26名出席
6月16日 東京会工総会
6月24日 近畿会工総会
6月25日 機友会総会
7月3日 セラ友会総会
7月15日 会報2006発刊
8月中旬



新年会(米熊にて)



総会前による琴演奏



二年目の桜が数輪咲きました

総会時の講演(顧問 吉田一榮氏)

会工同窓会の一員として



斎藤 淳

この度、会工同窓会入会にあたり、同窓会の諸先輩方には厚い御礼と御支援をお願い申し上げます。さて、私達はこの春会工を卒業し同窓会に入会させていただきました。在学中に何度か耳にしたことのある会工同窓会ですが、どのような活動をしているのか具体的に分かりませんでした。しかし、今思い返せば鶴翔会館の建設や桜の木を植樹するなど、それ以外にも在校生の学校生活に役立つ活動をしていく気持ちでいっぱいになりました。

そして私達は同窓会の一員となりました。これから私達も母校に貢献できるような活動をしていきたいと思っています。卒業後もこうして会工に携われることを、会工の繋がりを活かして、会工の卒業生として嬉しく感じています。

また、会工同窓会が全国にあることを知り、会工で学んだ「物づくり精神」が全国各地で花開いているのだと、改めて感心したと同時に、私達も全国各地で「物づくり精神」を花開かせるよう頑張ります。

最後に、同窓会員としての自覚を持ち会工のさらなる発展を期待し、これからの人生を過ごしたいと思っております。

'06職員人事

お世話になりました。

○転出先

○転任校

- 佐竹 勝行 退職 (喜多方工業高等学校)
小熊 常輝 退職 (会津農林高等学校)
内藤 陸郎 退職 (喜多方工業高等学校)
伊藤 善一 退職 (喜多方工業高等学校)
岩田 健昭 退職 (喜多方工業高等学校)
渡部 雅和 退職 (喜多方工業高等学校)
菅原 典和 退職 (喜多方工業高等学校)
大竹 豊 退職 (喜多方工業高等学校)
本吉 千子 退職 (喜多方工業高等学校)
谷内 俊 退職 (喜多方工業高等学校)
菅家 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
高橋 正 退職 (喜多方工業高等学校)
馬場 正 退職 (喜多方工業高等学校)
滝田 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
佐藤 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
鈴木 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
平野 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
黒澤 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
佐野 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
星野 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
渋谷 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
本田 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
高橋 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
栗田 隆 退職 (喜多方工業高等学校)
- 齋藤 修平 退職 (喜多方工業高等学校)
遠藤 宏行 退職 (喜多方工業高等学校)
大久保 保一 退職 (喜多方工業高等学校)
小田 切也 退職 (喜多方工業高等学校)
鈴木 康生 退職 (喜多方工業高等学校)
今野 信孝 退職 (喜多方工業高等学校)
竹中 貴行 退職 (喜多方工業高等学校)
渡部 孝志 退職 (喜多方工業高等学校)
玉川 誠 退職 (喜多方工業高等学校)
服部 良男 退職 (喜多方工業高等学校)
高橋 智子 退職 (喜多方工業高等学校)
鈴木 智子 退職 (喜多方工業高等学校)
嶋田 徳学 退職 (喜多方工業高等学校)
安齋 常勤講師 退職 (喜多方工業高等学校)
長谷川 常勤講師 退職 (喜多方工業高等学校)
半澤 幸祐 常勤講師 退職 (喜多方工業高等学校)
浦山 弓枝 常勤講師 退職 (喜多方工業高等学校)
- 坂下高等学校より
会津看護学校より
喜多方工業高等学校より
福島工業高等学校より
勿来工業高等学校より
小高工業高等学校より
新採用
喜多方工業高等学校より
喜多方工業高等学校より
郡山北工業高等学校より
福島工業高等学校より
南会津高等学校より
有限会社 渡辺重機より
福島工業高等学校より
喜多方工業高等学校より
喜多方工業高等学校より
株式会社オーテックより
千葉県更津市立金田中学校より
新採用





## シュガーキング・松江春次翁を訪ねて

# サイパン友好の旅

2006年4月15日 (土)  
～4月19日 (水)

### ▼4月15日 (土)

AM 2:30 タクシーにて会津若松駅前集合  
AM 3:00 貸切バスにて会津若松駅前出発 磐越・常磐道経由、成田へ  
AM 8:00 成田空港到着 (第一ターミナル) チェックイン・荷物預け・出国手続き  
AM 10:35 NW076便にて空路サイパンへ (所要時間・約3時間25分)  
AM 3:00 サイパン空港到着、入国手続き・荷物受け取り後、専用バスでホテルへ  
(ホテル名・フェスタリゾート&スパサイパン)  
PM 6:30 ホテルにてジョイフルディナーショー (サモア・タヒチ・ダンス)  
ダンス大会で優勝・終了後 ホテル前自由散策

### ▼4月16日 (日)

AM 7:30 朝食・ホテル内レストランにてバイキング方式 (種類が豊富)  
AM 9:30 マリアナ高校の安達先生、キース君の出迎えを受けキース君の父親の勤務する  
ハイアット・リゼンシーホテルへ先生の案内でホテルの大庭園と海岸を散策  
昼食。(キリスト教の安息日に当り特別料理で日本食も豊富でした。)  
PM 1:30 アメリカン・メモリアルホール・パーク博物館へ見学後、サイパン島を一望  
できるタボチョ山 (標高334m) へ日本軍の激戦地を眼下に見る。  
PM 4:00 デフリーズショップへお土産等々ショッピング後ホテルへ  
PM 6:00 安達先生、キース君と一緒に夕食会 (さしみ、天麩羅、寿司、焼き鳥等)  
日本食で歓談、会工高へキース君が短期留学した事を中心に話題に花が咲きました。

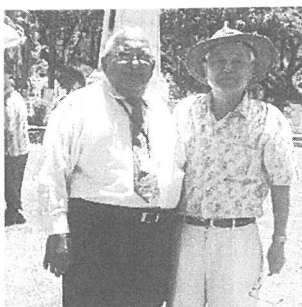


### ▼4月17日 (月)

AM 8:15 サイパン市庁へ市長表敬訪問、管家市長、佐藤市会議員、谷ヶ城交流会会長、真部交流会事務局長、  
手代木 (利)、手代木 (徳)、大掘、片桐、会工高同窓会副会長、会工高同窓会事務局 梨子本  
AM 9:30 マウントカメル大聖堂で、観光コースグループと合流観光へ  
南洋香興発本社跡、発電所跡、病院・社宅遺構を見学後シュガーキング公園へ  
サイパン市と会津若松市との友好交流を記念する石碑の除幕式を両市長が行う。現地の人々も参加しました。70才以上の人は日本語が達者でした。  
AM 11:30 北マリアナ連邦博物館、見学、昼食、アクアリゾート、レストラン昼食後、パンザイクリフ・ラストコマンドポストを見学、ホテルへ  
PM 18:30 サイパン市長招待親善交流パーティー (カリリアン・ロット) チャロモダンス、最後はゴーゴーダンスで終了しました。終了後、自由散策

### ▼4月18日 (火)

AM 8:00 サイパン市長招待の朝食 (ハイアット・リゼンシーホテル)  
AM 9:30 安達先生、キース君と一緒にマリアナ高校へ。校長と面談、記念品の交換、今後の学校交流について話し合う。学校において、銃を担ぎ軍事教練を行なって居りました。実弾訓練も年3回行なうとの事でした。高校生は「戦争はきらいだが、敵が来たら国と家族を守るのは自分たちです。」と言って居たことに感銘を受けました。日本の高校生にその考えがあるのか考えさせられました。  
AM 12:00 ホテル、チェックアウト、昼食はホテル内レストランにて、  
昼食後ショッピング  
PM 2:30 ホテルより全員揃って専用バスにてサイパン空港へ  
PM 3:00 空港にてチェックイン・出国手続き・ショッピング  
PM 5:00 NW075便にて空路日本へ (所要時間約3時間30分)  
PM 7:30 成田空港到着、入国手続き・荷物受け取り  
PM 9:00 貸切バスで会津若松へ (磐越・常磐道経由) 車中泊



### ☆会工高同窓会よりの参加者 (6名)

会津若松市会議員 佐藤 義之 (42M卒)  
若松会工会会長 手代木 利夫 (28A卒)  
坂下会工会会長 大掘 純一 (27C卒)  
会工電友会会長 手代木 徳夫 (28E卒)  
会工修美会会長 片桐 進一 (31L卒)  
事務局 (セラミック科職員) 梨子本 傑 (41K卒)

### ▼4月19日 (水)

AM 1:30 会津若松市到着 自宅へ

記：手代木徳夫

## 若松会工会主催一エクスカーション 親善・交流ゴルフ大会ご案内

この度、会員の皆様との親善・交流のため、第1回ゴルフ大会を開催することになりました。

総会の次の日ですが、地元会津はもとより、東京、近畿、東海と県内外から総会へご出席される会員から多くのエントリーをお願い申し上げます。

## 大会要項

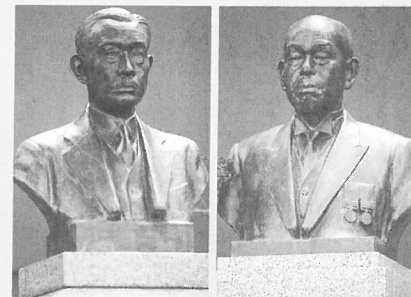
日時：平成18年10月22日 (日) 8時30分集合  
場所：メロウウッドゴルフクラブ TEL 0242-74-5050  
(磐梯町更科清水平 6838-68)

コンペ会費：3,000円 (パーティー費、賞品)  
プレー費：個人負担 (食事付7,000円の格安料金です)  
宿泊ご案内：リゾートインアルツ (ホテル) TEL 0242-74-5100  
お一人様7,000円 (朝食付)

※前泊21日 (土)、当日22日 (日) どちらでも料金は同じです。  
お問合せ先：ゴルフ大会幹事 小山 源昭 TEL 0241-48-1512  
同窓会幹事長 若狭 春生 TEL 0242-26-3246



## 卒業式



松江春次翁、鈴木善九郎翁の2体修復



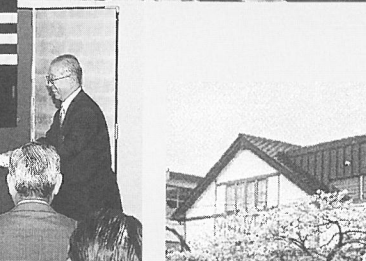
PTA役員 佐藤満氏 (右から2人目)、五十嵐雄一氏 (右端)



本部役員会 (鶴翔会館にて)



## 会工同窓会総会



## 平成18年度本部同窓会総会のご案内

日時：平成18年10月21日 (土)  
午後4時 (午後6時より懇親会)

◎講演会 (総会終了後)  
演題「会津から世界へ～  
春次と英世の思い」

講演者 小松山六郎氏  
場所：ホテル「いづみや」  
TEL 0242-27-5538

※総会当日午後1時30分より、前吉田一榮氏の胸像建立の除幕式を行います。

## 【歴代同総会長一覧】

| 順    | 氏名     | 在任期間                      |
|------|--------|---------------------------|
| 初代   | 下山 又次郎 | 明治40. 3～                  |
| 第2代  | 金子 篤寿  | 大正 6. 1～                  |
| 第3代  | 正来 遊方  | 大正14. 8～                  |
| 第4代  | 井口 直次郎 | 昭和 6. 6～                  |
| 第5代  | 高橋 清章  | 昭和13. 1～                  |
| 第6代  | 河野 幸男  | 昭和18. 7～                  |
| 第7代  | 中川 源三郎 | 昭和22. 7～                  |
| 第8代  | 田場川 弘喜 | 昭和23. 4～                  |
| 第9代  | 秋山 寛二  | 昭和24. 12～                 |
| 第10代 | 吉川 省   | 昭和29. 6～                  |
| 第11代 | 佐藤 勝次  | 昭和29. 10～                 |
| 第12代 | 新田 義一  | 昭和33. 5～                  |
| 第13代 | 吉川 省   | 昭和49. 11～昭和50. 10～佐藤勝次郎代理 |
| 第14代 | 佐藤 勝次  | 昭和51. 12～                 |
| 第15代 | 吉田 一榮  | 昭和54. 10～平成15. 10～        |
| 第16代 | 梅津 正夫  | 平成15. 10～                 |







## 東京会工会 東京会工会の現状

会長 荒井士郎  
(昭34K卒)



1911年 東京神田で「福工会」として生まれ、1941年「東京会工会」に改称、2011年で100才を迎えます。記念事業の一環として母校に桜100本を寄贈することに決定。昨年より実施（染井吉野20本）今年は早咲の河津桜を20本植樹致しました。

15、20年後には、桜の名所として脚光を浴びるのではなからうかと胸をワクワクさせております。又、御厚志を頂いた方の御芳名を銘板に刻み後世に残したいと思っております。尚、同級生の方で母校花いっぱい御賛同いただける方がおられれば事務局で受付致します。ぜひ、御申込頂きたくお待ちしております。（2010年までに5000円振込んで頂ければ銘板に刻字させていただきます。）

執行部では、気軽に参加でき、交流を深める場を作ることを念頭に、「総会・懇親会」以外に「地引網」「ナシ狩り」「イモ煮会」「ゴルフコンペ」とかなり多忙な行事を実施しております。おかげさまで



東京会工会茅ヶ崎海岸地引網2005.5.21

## 東海会工会 鳥羽旅行

新会長 星 芳雄  
(昭36E卒)

今年1月27日（金）東海電友会有志6名で鳥羽一泊旅行に行き親睦を深めました。過去3回会食等で集まったことはありませんが、一泊旅行は今回が初めてです。

ホテル「アルティマ鳥羽」17時現地集合の予定時間前には全員集合となり、何よりも先に一杯酒をあり、その後、露天風呂で一風呂を浴び夕食です。当地名物伊勢海老等の海の幸、松坂牛や山の幸で酒の進み具合の早いこと、食べ、飲み、話題に花が咲きアット言う間の宴会でした。

その後、カラオケでノド自慢披露し楽しい夜を過ごしました。次の日は全員で今春開業12周年を迎える志摩スペイン村へ行き、見る遊ぶ食べるを満喫しました。春季限定イベント「本場スペインの踊り手」による情熱的なフラメンショーには魅了させられました。

フラメンコは本来「喜び」「悲しみ」「怒り」といった人間の中に無限に存在する感情を自由かつ即興的に体で表現し、見る者の心に伝えるものだそうです。



スペイン村

スペインダンサー達のほとばしるような感情と本場スペインの斬進な振り付けも楽しみの一つでした。

日本の古典にも「落語は笑い」「浪曲は涙」講談は怒り」とありますが、フラメンコは踊る体で表現する、すばらしい芸術でした。今回は時間の都合で見ることが出来なかった伊勢神宮も、帰路の途中にあります。

今年は20年ごとに神殿や宝物を、そっくり作り替える「式年遷宮」が始まり8年掛りの大事業の年です。

「遷宮は建築や工芸技術を次世代に継承していく優れたシステム」と評価する人は多いです。

50以上の町が用材となる松の巨木を神宮へ運び入れ、先輩から後輩へ伝統を受継ぎ、30種以上の行事を重ねて、平成25年に遷宮完了を目ざします。

1300年続く式年遷宮は、社

# REPORT & MESSAGE

## 近畿会工会 有馬温泉探訪記

会長 渡部藤雄  
(昭31E卒)

去る4月15日、近畿会工会では有馬温泉一泊二日の親睦旅行を行いました。

昨秋に計画した親睦旅行は、参加者が少数のため中止したのですが、今回も体調の具合から、直前で欠席された方もあり、参加者は結局、麻雀人数となつてしまいましたが、一寸寂しかったが、温泉もホテルも最高でした。

初日はあいにくの雨降りでしたが、温泉で身体を癒した後、夕餉の席では杯を交わしながら、政治経済から教育の問題など、話が弾み大いに盛り上がりました。

翌日は打って変わった晴天に恵まれ、神鉄有馬温泉駅でメンバーと別れ、小生一人で有馬温泉歴史探訪をすることにしました。有馬温泉には何度も来ているが、一人で好きな所を、思いのままに歩くのは初めてのことです。



有馬温泉駅を出て、右手に行く直ぐに目に入るのが、左手の太閤橋、桐の家紋が刻入された石造りの立派な橋である。道路をはさんで橋の右手には、ゆけむり広場がある。中央には湯けむりに見立てた円形の滝、その右手には有馬温泉の大恩人である太閤秀吉像が、ねね橋のねね像に向い合つて鎮座している。

そのねね橋は、町の中心部にある赤い欄干の橋、その橋の手前右手に、秀吉像に向い合つた、ねねの立像がある。

ねね橋の前の道を真直ぐ行き、バスセンターの辺から左に折れ、石段を登ると、御所泉源、天神泉源、極楽泉源など有馬温泉の泉源が散在する。

丁度満開の桜の中を更に進むと、ねねの別邸跡と伝えられる念仏寺、この庭園の樹齢250年を数える沙羅双樹が見事である。近くには極楽寺、温泉寺、愛宕山公園の石段を登ると、有馬温泉の守護神である温泉神社があり、この辺りには多くの神社仏閣が散在している。温泉神社には、有馬温泉を発見したと云われる大己貴命、少彦名命と、熊野久須美命が祀られている。

温泉神社に行く途中の左手に太閤の湯殿館がある。この太閤の湯殿館は、震災復興のために極楽寺の書庫を立替する際、400年ぶりに発見された、太閤秀吉の湯山

御殿の発掘資料館です。その太閤秀吉の湯山御殿は江戸時代に取り壊され、その跡に極楽寺と念仏寺が建立されたということです。

有馬温泉は、温泉神社に祀られている二神によって発見された後、地震、洪水、大火などの災害、更に戦国時代の余波を受けながら、崩壊再興を繰り返します。この再興に大きく貢献したのが、大和の国高原寺の住僧仁西と、太閤秀吉でした。仁西は温泉復興後、僧侶の宿泊施設として、十二の坊を営みました。現在でも有馬に「坊」の付く宿が多いのは、この流れをくむものといわれております。

秀吉は天下統一を成し遂げ1583年、長い戦いで疲れた心体を癒すため、名湯の名高い有馬を訪れます。これが記録に残る秀吉の有馬初入湯です。1596年近畿一円を襲った慶長伏見地震で、温泉の温度は急上昇し熱湯になってしまいましたが、これを知った秀吉の大英断で、有馬温泉の根本的な改修工事が行われます。以来泉源の改修工事は、一度も行われることもなく、現在の繁栄を続けており、改めて秀吉の偉大さと、有馬温泉との関わりを深さを感じさせられます。

改修工事が完成した1598年5月に、秀吉は入湯の予定でしたが、激しい風雨のため中止となり、その後床に伏されて8月18日に亡

## 郡山会工会

事務局 菊井哲哉  
(昭58D卒)

くなったため、秀吉は改修の成果を見ることなく、この世を去ったのであります。

温泉街の登り下りの坂道を歩き回り程良い汗をかくて、身も心も満ち足りた気持ちで電車で揺られながら、帰途に着きました。（おわり）

私は昭和58年にかつての電子科を卒業した後、進路を一転し歯学に進んだ結果、現在、歯科医師として奥羽大学歯学部で教員をしています。郡山会工会なる存在



会や事業が持続的に発展するヒントが詰った宝庫に思われます。今後も東海電友集いの会を継続におこなって行きたいと思えます。

6月4日（日）名古屋市西区志の島本店にて会津若松より熊田校長先生、梨子本先生、手代木（利）副会長、若狭幹事長、東京会工会 荒井会長、近畿会工会 荒井副会長の6名来賓に御出席いただき総会を開催しました。

総会は校歌斉唱に始まり、式次第に則り無事終了。

又、懇親会は、浅沼 定雄（33K）総務幹事の剣舞、白虎隊の舞の後、カラオケで盛り上がり最後に熊田校長先生の指揮のもと、応援歌を全員で歌い終了しました。

毎年会員は、25名位参加されるのですが、今年は仕事、体調不良、家事都合等により若干少なく18名でした。

総会終了後、役員反省会を行い、来年は名簿上の会員に総当たり参加者の増加を図ろう、と誓い合い解散しました。



東海会工会総会

を知ったのは平成9年だったかと思われまふ。当時は会津工業高校創立一〇〇周年記念事業などのことが話題になっていました。郡山会工会の案内状を頂いたから毎年開かれる定期総会に出席していますが、出席されている方々はかなりの年代に隔たりがあるため、昔話を聞いているという感があります。郡山会工会としては会の組織を次の世代に引き渡したいとの意向があるようで、3年ぐら前からボーリング大会を開催していますが、郡山に在住する会工同窓生の、若い世代の出席は伸び悩んでいます。同じ頃から郡山会工会の事務局の仕事させてもらっていますが、一人だけ離れた職種にいるため同窓生の動きについては全く見当がつかず、郡山会工会の世代交代については手詰まり状態です。

郡山会工会としては最近「ボーリング大会」などを催して新しい世代の参加を促していますが、参加数は伸び悩んでいます。現役世代は現在の執行部が考えているほど暇ではない、と言えののかも知れません。同窓会の最近の傾向として言えることは同じ学校を卒業しても、友人関係は長続きしますが、とくに利害関係のない同窓会への関心は年々減退する傾向があり、大学同窓会でも新規入会者の減少や会費未納が見られます。つまり、学校は一種の「自己実現の道具」であり、ある種の資格や実力がつけば後は無関係にしたい、という方々も多くなってきたというように思えます。次第に同窓会の活動費にも影響するようになり、「機関誌の発行・配布」をどうす

# 文武両道



るなどの議論に発展してきます。高度情報化社会になって同窓の力を頼らなくても、自分に必要な情報は入手できるようになったためであるとも考えられます。



野球応援（開成山球場）

## 福島会工会

会長 星 武  
(昭27E卒)

今年度は12月に定期総会を予定しています。



若松会工会の現在の姿を見てどう思われるか、その活動はどうしているのか。まず同窓会の母体になつて行かなければならないと思います。そのために今後のあり方について勉強して行なわなければならない、今回初めて役員会を開催し、今後のあり方について検討しました。第一に地元同窓会が弱体ではどうにもならない。せめて組織の強化、そしてリードして行く道がないか、行かなければならないと思います。同窓会には地域の同窓会、科別同窓会、職業別同窓会、三本柱で成り建っており、その中で若松会工会は地域の同窓会であり、一、総会時に若松会工会総会を開催する

## 若松会工会

若松会工会の現在の姿を見てどう思われるか、その活動はどうしているのか。まず同窓会の母体になつて行かなければならないと思います。そのために今後のあり方について勉強して行なわなければならない、今回初めて役員会を開催し、今後のあり方について検討しました。第一に地元同窓会が弱体ではどうにもならない。せめて組織の強化、そしてリードして行く道がないか、行かなければならないと思います。同窓会には地域の同窓会、科別同窓会、職業別同窓会、三本柱で成り建っており、その中で若松会工会は地域の同窓会であり、一、総会時に若松会工会総会を開催する

役員組織について  
会長・手代木利夫／副会長・平田靖雄（機友会会長）／手代木徳夫（電友会会長）／坂場恒雄（セラ友会会長）／若狭春生（幹事長）／片桐進一（美修会会長）／安西一秀（建友会会長）／事務局長・小山源昭／会計・眞田郁夫／監事・佐竹重男／斎藤四志男  
各方面に支部長を置く  
行仁・佐竹重男／鶴城・斉藤四志男／謹教・栗城和夫／城北・田中祥一／日新・佐藤松夫／城西・坂場恒雄／町北・佐々木芳雄／高野・浅田誠／神指・関場一宏／門田・小山源昭／東山・伊藤博／一箕・安西一秀／大戸・小山泉寿／湊・賞森政美  
若松会工会は全員の考え方を以て進めることが大切であり、地元の利を利用して進める方針であります。各自が自分たちの考え方を反映し進めるべきであり、努力は一日にして成らず、長い年月をかけて努力してまいります。一人一人が自覚をし、総会に向けてがんばって行なうべきです。今後共、皆様に御願して若松会工会発展のため力添えを重ねて御願します。

## 猪苗代会工会

愛好心

会長 佐藤 保  
(昭33C卒)

それは年一回の総会を終え、懇親会に移ってからのことである。熊田校長が遠方への出張から戻り、疲れているにもかかわらず、わが猪苗代会工会のために駆けつけてくれたのです。

そして、挨拶をいただき、宴が盛り上がった頃、校長が校歌を熱唱し始めると、歌詞を見ないで全フレイズを唄いきったのです。

在校生でもなかなか唄えるものではないと思うと、校長は相当の努力家であり、会津工業に相当思い入れがあるのだと感じました。

最後には、「がんばれ応援歌」を全員で大合唱して、来年度の再会を誓い合いながら、懇親会を閉じました。熊田校長が本日に学校を愛し、地域になじもうとする前向きな姿勢が感じられて、われわれOBも力強く思いました。

このような指導者がいてこそ立派な会工健児が育つていくのだなと痛感し、充実した総会となりました。ありがとうございました。

## 坂下会工会

副会長 佐藤 悦朗  
(昭32K卒)

坂下会工会の大堀順一会長（27C）は母校愛に燃えた名リーダーである。平成13年4月には、母校創立一〇〇周年記念ツアー「松江春秋会を訪ねる会」を坂下会工会が主催し、松江翁のお孫さんである佐伯圭一郎氏の協力を得て成功に導いた。そんなことから、昨年9月にはマリアナハイスクールの松江賞受章のキース・ガバルドン君をホームステイさせている。

以前から会高、若商とは総会時に相互に呼び呼ばれし、友好促進を計っている。ある時期には三校ソフトボール大会を開催し大いに親睦を深めていたが、最近では三校に加え、地元の会農、坂高をも誘い、五校対抗ゴルフ大会を立ち上げ、盛会のうちに継続している。これも大堀会長の人脈の広さと人柄で、まとまりのある会となつて



猪苗代会工会10月28日 於旅館新生にて

INDOINTOXMITDOAOE



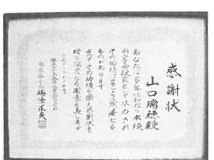
坂下会工会総会

平成18年度  
定期総会  
9月4日（月）  
午後6時  
場所 奈良屋

## 湯川会工会

会長 菅沼章生  
(昭29C卒)

菅沼会長になられて2年目の定期総会を平成18年8月9日に開催します。



8月9日（水）に本部より前・湯川会会長 山口瑞穂氏へ感謝状贈呈



坂下会工会総会



## 西会津会工会

会長 鈴木 仁  
(昭21M卒)

平成17年5月に、山本会長より鈴木、仁新会長になりました。



本部より前・西会津会工会 山本幸助氏へ感謝状贈呈

## 建友会

会長 安西 一秀  
(昭36A卒)

建友会は、本年2月25日、社会経済情勢の変化に鑑み、開催場所を東山温泉より市内に移し、総会



また、懇親会においては、衆議院議員、商工会議所会頭、同窓会長、PTA会長、学校長及び恩師の方々、建設、設計関係の方々、更に、賛助会員の方々を迎え会員を含め160名の参加のもと、開催することができました。ここで、会



## 電友会

会長 手代木徳夫  
(昭28E卒)

「電友会」は平成7年6月結成以来、11年を迎えました。会員は電友会の目的である、親睦と母校の発展に寄与して参りました。会員各位のご協力に感謝いたします。会工高も創立一〇一年を過ぎ、20000以上の卒業生を送り出し、日本の経済社会を担う技術者



第11回会工電友会定時総会

長としての会の運営の考えとして、一つ、先輩方が築いてきた歴史と伝統を守り、育てること。一つ、多くの会員が集い笑顔の中で語り、旧交を温められること。このような考えのもと、会員の方々の協力を心よりお願いを申し上げました。また、執行部も、もちろん努力をしております。なお、H19年度総会も2月の第4土曜日を予定しておりますので、お誘い合わせのうえ参加をお願い致します。

最後に、前・手代木会長と石原副会長が退任をされました。ここに、長年にわたり会の発展にご尽力をいただきました両氏に対し、心より感謝と御礼を申し上げます。さらに、同窓会の発展と、在校生の活躍をご期待申し上げ報告と致します。

を輩出してあります。電気科は今回56回の卒業で2600名強になり、卒業生の多くは電気技術者として国内又は国外の各分野において活躍され、その業績は高く評価されており、会工高電気科の名を高めております。

今回、電友会運営の効率化を図るため今まで無かった事務局の設置をする事とし、第11回会工電友会総会で承認いたしました。

第11回会工電友会総会報告  
(電友会 現在会員数220名)  
平成17年11月12日会津若松市ホテル・ニューパレスにて開催  
平成16年度事業報告と会計報告に続いて平成17年度事業計画として

(1) 電友会だよりの掲載（総会並びに会員だよりの掲載）  
(2) 会員の増強（同窓会の活用）と組織の充実（事務局の活動）  
(3) 会員相互の親睦（新年会・芋煮会の実施）（ハイキング・旅行等の計画実施）

規約改正を行ない事務局の設置を承認いたしました。役員は次の通り

同窓一万五千



# 至誠勤労

り決定いたしました。  
 会長 手代木徳夫  
 副会長 冠木忠之・小沼孝生・小林憲一・山口 健・荒明正義  
 監事 西村一夫・武藤 栄  
 理事 田部 悟・鈴木安太郎・渡部昭寿・根本一男・安西順一・藤田晴史・長谷川与一・浅田 誠・佐々木桑市・大河原史郎・本田昭一・佐々木和朗・小池光男・日下義雄・棚木武夫・菅沼淳一・菊地良三・阿久津 智・鹿目忠明・杉本憲司・相原久栄・照井一利・前田宣裕・真田郁夫  
 顧問には真田賢祐・栢森幸雄（前会長）を御推薦いたしました。

「電友会史跡めぐり」 H18・6・2  
 大龍寺・天寧寺  
 （郡長正、近藤勇の墓）  
 愛宕神社・松平家御廟・御薬園で会食・解散  
 会員の市ボランティアガイド（会津史学会会員）大川原史郎氏（S30 E卒）の案内で会員8名で実施。



本部より前・電友会会長栢森幸雄氏へ感謝状贈呈



## セラ友会

会長 坂場恒雄  
 （昭34 K卒）

7月15日窯業・セラミック科の卒業生でつくる第7回セラ友会総会は、会津若松市のホテルいづみやで開かれた。約45人が出席し、校歌斉唱に続いて坂場恒雄会長が「会の発展に向けて協力をお願いしたい」とあいさつした。このあと本部同窓会への支援・協力、同窓生の美術展への協力、入会式、懇談会の開催、研修会などを行うことを決めた。



『セラ友会会報』1号より4号編集 35 K卒・板垣正宏氏への記念品贈呈



総会のようなす

## 機友会

会 計 荒川富士雄  
 （昭43 M卒）

7月3日割烹「米熊」で定時総会を開催し、本年の事業として「10月に行われる会工祭で売店を出し、機友会の存在をアピールする」・「会員増強と会員相互の親睦を深める」などを決議した。

また、ものづくり大会（旋盤部門）・全国電動カート高校選手権大会・全国アイディアロボット大会・ホンダエコノパワー燃費競技

会津工高機械科へ同窓生激励金贈る  
 若松  
 会津若松市の会津工高機械科同窓生でつくる機友会（金田靖雄会長）は十三日、同校へ激励金を手渡す。



大会・スターリングエンジンテクノラリ―全国大会などで優秀な活躍をしている機工科研修部への応援として、昨年に引き続き激励金を贈呈した。

# REPORT & MESSAGE

## 日曹会工会

会長 瀬田晃旬  
 （昭45 F卒）

3月10日に総会を開催し、新役員が決定されました。  
 懇親会は同日、東山グランドホテルにて行われました。

会 長 瀬田 晃旬  
 副会長 岡戸進一郎  
 幹事長 永野 正幸  
 会 計 横川 博幸  
 三富 隆良

## 昭和電工(株)東長原事業所会工同窓会

会長 山口栄喜  
 （昭46 E卒）

日頃より会津工業同窓会には何かとお世話になりお礼申し上げます。

当東長原支部は磐梯山を間近にした緑豊かな地域環境にある河東町長谷地区にあり、この昭和電工の敷地には、昭和電工（株）東長原事業所とキャボットスーパーメタル（株）会津工場、中央ケミカル（株）東長原工場等の各社があり、有機化学や無機化学などの化学工業製品と電子材料等の非鉄金属関係の製造を行っており、現在の会工同窓会の会員数は46名で、各会社の責任ある職場で昼夜

## クラス会

### 昭和18年度卒業

影山五郎  
 （昭18 L卒）

吾等の会は、昭和14年に染織科30名・漆工科15名の計45名で一学級として編成され入学し、昭和18年度に5年間の学業を終え、それぞれの人生を歩んで来た仲間が集まっています。

卒業してから45年後の、昭和63年6月に現在會工同窓会の副会長を務め、又、郡山支部の会長としても活躍中の、荒井久君及び東京在住の東田武司君等の音頭により、第一回目の同級会を磐梯熱海温泉に於いて開催し、會工一八会と命名し郡山班・会津班・東京班の3班に分け、輪番制として毎年6月に同級会を開催し旧交を温め合いながら、会場近辺の名所旧跡等を訪れ研修を重ねる事で、この会を発足しました。あれから平成17年で第18回目の同級会を重ねることが出来ました。当初は20名程の参加者でしたが、物故者、及び健康上の理由等で、年々参加者も減り10名を割るのも近年中の事と思われませんが、これも傘寿を迎える老



人の集まりなので、止むを得ない事なのかもしれません、しかし残った仲間達で米寿の祝賀会を盛大に開催出来る様、頑張る所存です。

### 昭和29年度卒業

坂内 寿  
 （昭29 E卒）

#### 古都を訪ねて

昨年11月初め、クラスメイト10人で久方ぶりに京都へのバスツアーに参加した。私たち東京組5人は新宿から高速バスに乗り込み会

津へと向かい、若松で会津組5人と合流した。ツアー客は県内の人達で総勢39名の旅立ちであった。新潟港からフェリーに乗ると、翌朝早く敦賀港に着き、そのまま京都三千院へと向かった。

京都の空は穏やかに晴れ渡り、車窓から街並みを見ているといつか来た友との修学旅行の想いが過ぎり、あのときから優に半世紀が経ち古希を迎えた今、私は会津若松駅で友を見送ることしか出来なかった自分に重ね合わせると、タイムカプセルを開けたような感じがしてならなかった。

京都への旅は季節柄「もみじ」の名勝地巡りなので、古都にふさわしい寺を訪ねる事になった。今年のもみじはこの季節にしては少し早かったが、訪ねた寺の重厚な建造物と境内のもみじが見事に調和し、歴史のロマンを観る事が出来た。そして先人達の偉大さと巧みの技に圧倒されてしまった。

旅は続き、香風溪から伊那峽へと秋の風情を満喫し、しばし友と語りながら命の洗濯が出来た。ツアー客を乗せたバスはぐるりぐると回って、会津組と別れを惜しんだのは伊勢崎であった。旅から帰り何日も経たないある日、世の中を震撼させる重大な疑惑が持ち上がった。それは、建物の構造計算に疑問があるとの事で、何という不始末を起こしたのかと思つた。京の寺院や仏閣は何百年もの間、風雪に耐えながらその歴史の一つ一つを刻んできたではないか。そんな思いにかられ、先人が築き上げた匠の技に感動を覚えた。

# 一意専心



## 昭和31年窯業科卒業

佐野 博

平成17年9月に東山グランドホテルにて卒業50周年を記念してクラス会を開催し、翌日『鶴翔会館』を見学。



## 昭和41年機械科卒業

栗城和夫

(昭41M卒)

私たちは、毎年6月にクラス会を開催している。今年は6月17日・18日の一泊で東山グランドホテル恒例の有志によるゴルフコンペを磐梯カントリーで行った後、ホテルに集合し、親睦を深めた。本年は新潟から1名、埼玉から2名、南会津・喜多方・猪苗代から各1名そして市内から4名の出席者だった。時間が過ぎるのも忘れて青春時代の話が花が咲き、会津の地酒を酌み交わした。来年の再会を楽しみに！



## 恩師 紺野晋吉先生を偲ぶ同級会

石田 功

(昭43G卒)

平成17年1月、突然の知らせ。新聞に目を通すと、紺野先生が亡くなられた、とのお悔やみの記事。目を疑いながら近辺の同級生に連絡。

あんなに元気だった先生、毎年手づくりの版画の年賀状をよこしていた先生、今年はこなかった山が好きだった先生。いつも山の様子の年賀状だった。昨年はどここの山へ登った、今年はなに山へチャレンジするとの内容。楽しみに待っていたのに。

紺野先生が会津工業高校の先生に就任したのは、確か昭和39年だったと思います。山形大学出たての新米先生、いきなり我々のクラス担当を持ち、悪戦苦闘の連続でした。ワルもいました。職員会議にかかってもかばってくれた先生。悪いことをされても、いつもにこやかであつた先生。我々クラス全員に山の雄大、自然の偉大さを教えてくれた先生。(すっかり先生と共に山にはまった者もおります)

就職活動も最後まで親身になって相談してくれた先生(この当時就職者希望90%でした)。おかげで全員就職(成績が悪いのに一流企業ばかり)。ありがとうございました。葬儀参列を呼びかけた所、地元はもちろん、関東(茨城、埼玉、東京)からも10名程度のクラスメイトが参列。先生の人格に感謝しつつお別れいたしました。葬儀会場には日本百名山を踏破した数々の写真、愛用のリュック、登山靴、ピッケル等見えているだけで元氣だったに在りし日の笑い声が浮かんでいました。百名山踏破した時の喜びよう、確か6年前(平成12年、50歳)に同級会を開催した所、現在チャレンジャーとの事、踏破後お祝いも兼ね5年後(平成17年、55歳から56歳)に開催しようと約束したのにお祝いが出来ず残念でした。平成17年8月13日お盆帰省時に同級会を開催する旨、募った所17名が参加。

この日は早目に集合して、紺野先生のお墓まいりをしながら在りし日を偲ぶ宴席にしようという計画。奥様にお寺が何処かたずねた所、まだお墓はできてなく本堂に骨箱を納めているとのことでしたので奥様も同行していただき、お寺の本堂にて読経法要を営みました。お墓を建造する場所、デザインも教えていただきました。(山を愛した先生でしたので山の形をした墓石とのこと、磐梯山が見える方向です)奥様の嬉し涙が忘れず、参加者全員がもらい涙を流しました。奥



様のお話ですと、いつも我々の時代の話がでていたようでした。始めてのクラス担任、思い出が深かったようです。夜、サンビエ会津にて宴席(5年ぶりの再会にて先生の遺影を前にして遅くまで盛り上がりました)いつもでも思っていてくれた先生。謹んでご冥福をお祈りいたします。きつと山よりも高い天国の上から我々を見守ってくれていると思います。

今年もお盆に同級生と共に墓参を計画中です。

後輩諸君、会津工業高校卒に誇りを持ちながら、このようにいつも心配してくれている先生方が今でもおります。卒業なされた諸先輩方は貴方たち後輩の事を心配し、就職のあつ旋や、会館の建立、松江賞の復活等いつも貴方達の事を心配して活動しています。卒業してからというものの、もう学校には関係ない、と言うことを言わないで積極的に母校に協力してください。

最後に両親はもとより、先生、諸先輩に感謝の気持ちを持ち、活躍してください。又、同窓会には是非参加してください。より良い人間関係ができます。

面倒見の良い先輩方です。参考 紺野晋吉先生のお寺 清林寺 馬場本町3-1

電話0242-222-6654

# REPORT & MESSAGE

## 昭和49年窯業科卒業

卒業後30年を記念して

幹事代表 三富隆良

(昭49K卒)

日時 平成18年1月2日  
午後4時  
場所 センチュリーホテル1階  
「食彩酒房 華」  
参加者 14名



K 49卒業

## M30機友会

稲玉光治郎

(昭30M卒)



還暦を機に、毎年5月同級会を開催している。ここ数年は会津東山温泉「ホテル・玉屋」が常宿である。(長谷川千尋君の姪御・超美人の「美奈子」さんが女将)地元福島県勢は勿論、静岡・神奈川・東京・千葉・他から、20名前後集まってくる。最近が高齢者の最大関心事である健康維持や若さの持続・アピールに関する話題に花が咲き、夜が更ける。会則により、会員またはその妻が逝去した際「M30機友会」名義の花輪(生花)を捧げ、会工健児の功績を顕彰している。そんな同級会、白寿の祝いまで続けたい。

## 野球部OB会



(右から)大塚顧問、熊田校長に寄付金を手渡す室井会長(左から2人目)、丑木幹事長

## OB会長 室井勝巳

(昭30A卒)

## 会津工高野球部にOB会15万円寄付

会津工業高野球部OB会(室井勝巳会長)は11日、同校野球部に15万円を寄付した。

同会は1975(昭和50)年ごろから毎年、夏の全国高校野球選手権福島大会に臨む同校野球部に、バットやボールなどの購入費に役立ててほしいと寄付金を贈っている。贈呈式は同校で行われ、室井会長、丑木孝吉幹事長が同校の熊田良治校長、野球部の大塚久泰顧問に寄付金を手渡した。

## 会工投打ガッチリ郡山、見せ場作れず



【会津工一郡山】郡山打線を2安打に抑える力投を見せた会津工のエース駒形=信夫ヶ丘球場

## 柔道部OB会

柔道部の変遷とその記録

事務局 舟木政市

(昭48A卒)

本校柔道部は、初代下山校長時代(1903年~1916年)に校友会内に創設されていたが、「柔道部」の名称があるのみで、当時実業学校全般の習いとして、正式の指導者はなく、ただ校友会活動の一部として、生徒の同好者が集って組織し練習を続けていたというに過ぎない。当時の時世は今と違って中学教育が重要視され、実業教育は稍もすると軽視され、運動面では中学教育に及ばない面が多々あったようである。すなわち武道教育においても専任の教師が指導する学校は、師範学校や中学校位なもので、その他の実業学校は指導者もなく、生徒同士が寄り集って稽古をするのが当然であった。したがって、平常の稽古は全く希な状態であった。ただ、毎年1月上旬に2週間程度実施された午前5時から午前7時までの寒稽古には、毎朝継続して稽古を行い、その納会にはノートなどの賞品を工面して紅白試合を行った。この期間だけは臨時に指導者を招聘するという状況であったようである。したがって、その実力には甚だしい差があり、他校との対抗試合などは夢にも考えられない有様であった。

# 一生懸命





# 乾坤秀靈

の形ができあがるようになる。1922年（大正11年）第一期に、會津中学3学年以下の部員と本校のベストメンバーで練習試合を行った。本校生は体格と、年齢で上回る生徒が多かったが、その技量・技術において劣り、完敗であった。当時の実力は十分に察することができ、蓋し、本校柔道部が他校との練習試合を行ったのはこれが始まりである。

（練習試合の結果）  
「會中三年生以下」 福島工業  
先鋒 小崎 小林

細井 吉山  
鈴木 大島  
小原 二瓶  
坂内 遠藤  
杉原 矢澤  
年野 松本  
太田 酒井  
春日野 橋本  
石橋 木村  
岩橋 武藤  
本名 飯島  
齋藤 田中  
遠藤 佐久間  
大將 河原田

敗れても、尚かつ進む本校柔道部は、勇敢にも県下中等学校体育大会を目指して頑張り、創設以来の大会出場を果たし、1922年（大正11年）10月9日、福島武徳殿における大会で大内、飯島、酒井、

日下、田中、大島、二瓶の各選手が出場する。全員奮闘が、一人の優勝者もなく敗退する。ただし、この試合以降、本校柔道部の名は県下に知れわたるようになった。この後は、他校との練習試合や県下体育大会等には常に出場することとなる。

第三代正来校長（1925年〜1931年）は、当時中学生と比較して、実業学校生が卑屈的な気持ちを持っていたため、武道の奨励によって生徒の意気を高揚させるために、大いに武道教育の推進を図った。

1926年（大正15年）4月、伊藤如周三段を本校最初の専任柔道師範として迎えたため、柔道部の面目は一新する。武道は、第2学年以下を准正課として毎週一回の授業が課された。また、柔道部員には放課後、毎日猛烈な稽古を行い指導した。一方の学則の改正により、従来の3ヶ年制が5ヶ年制に改まったため、その修学の程度は大いに向上した。伊藤師範は熱心に生徒を指導し、「精力善用」「人格の修養」など武道教育の中核をなす精神訓育にも力を注ぎ、大いにその手腕を発揮された。柔道場は、しばらくは生徒控室を利用して、寒稽古・夏稽古などには早稲田大学、あるいは武専などから友人を招いて猛烈な練習を行った。また、暑中休暇を利用して選手を講道館に引率して、昇段試験を受

けさせたため、本校から在学中に有段者を多く出すようになった。県下中等学校体育大会には毎年連続出場し、相当の成績を収めた。また、他校との練習試合も盛んに行うようになり、ここに會工柔道部の基礎が確立され、その名声が県下に広がることとなった。

1929年（昭和4年）8月、伊藤師範が家事都合により退職したため、同年9月より佐藤傳十三段が第二代の柔道部師範として赴任した。同氏は本校卒業後、講道館において修行し、本校にとって最初の有段者であり、初代伊藤師範の精神を継ぎ県下大会で優勝させるため5ヶ年計画を立て、専心柔道部の発展と実力の養成に努めた。暑中稽古、寒稽古等には拓殖大学生高木武義四段を迎え生徒の実力養成に努めた。

第四代井口直次郎校長（1931年〜1937年）時代は、渡邊巽四段を本校師範に依頼し、二人協力してひたすら県下大会の優勝を目指して指導に専念した。1933年（昭和8年）4月より、第1学年から第5学年まですべて一〇点法で正課として取り扱うこととなり、生徒の志気は大いに揚がった。4年・5年の中で優秀なものは在学中に、有段者となる者も毎年数名で出ることとなった。1931年（昭和6年）7月、東洋大学柔道師範白井五段と学生後藤四段以下9名の一行を迎えて、一

週間に亘り猛烈な指導を受け、選手の間にも凄く、県下体育大会に出場した。参加20校で得点15、順位5位となった。その後は、県下体育大会を初め、毎年、福島高商主催東北中学校大会に出場し、會工柔道部の真価を発揮した。さらに、暑中休暇を利用して選手が東京高等師範の柔道講習会に参加した。また、講道館の暑中稽古にも臨み、次年度の活躍を期待しながら、ひたすら稽古に励んだ。1932年（昭和7年）は、前年度の選手が引き続き在学したため、練習試合において會中・喜中・若商・會農等も苦もなく敗り、講道館の暑中稽古に参加し、その他都下町道場・各区警察署等に練習試合を申し込み、一度の敗戦を見ることもなく優勝して大いに自信を得て、必ず県下大会に優勝しようとする意気大いに盛り上がり、9月1日、講道館より真つ直ぐに、当番校警城中に向かった。当時、選手全員が黒帯の有段者は本校と福島師範だけであった。宿に着き監督会議に出席した状況では、會工強しの下馬評が余りにも高く、当日が心配になって来たとの事であった。選手一同は大いに張り切つて、益々ファイトを燃やしていたが、果たせるかな皆当日になって、敵はその堂々たる本校選手の偉容に恐れをなして、初めから引き分けの戦法で予想を裏切つて得点が少なかった。十分実力を持ちながらも、常に勝っている選手に対しても相手が引き分け主義のため、涙を飲んで優勝を逃した事実がある。ただし、その実力は遺憾なく県下に示せるものにして會工柔道部に

## REPORT ON MESSAGE

おける戦前の黄金時代であったと思われる。その年、會農が柔道教師欠員のため、本居教頭より本校選手を指導者に招聘依頼され、毎日選手を輪番で送っていた。

第五代高橋清章校長（1938年〜1943年）時代は、社会情勢の理由から校友会が改組され修練隊の主旨にのり、佐藤師範指導のもとで上級生有段者が中心となつて、普遍的に部員の稽古に重点を置き、盛んに日々の練習に励んだ。部員数は、本校運動部の中で随一で300有余名にのぼっていた。当然、その実力は他校に劣ることはなかった。ただ、時局の影響や経費の関係で、各種の武道大会に遠征が出来ない状態であった。その後は、第二次世界大戦等の影響で練習に専念できる状態ではなかった。

終戦によって戦時体制が解かれ、正常な学窓生活に飢えていた生徒達は校友会活動の復活を熱望した。こうして1947年（昭和21年）から1947年（昭和22年）にかけて校友会の復活がなされた。1947年（昭和23年）に学制改革が行われ、中等学校は新制中学と新制高校という二つの年代に区分された。柔道部も、この頃に活動が復活したのと思われるが、詳細な記述は現存していない。1952年（昭和27年）に、顧問として鈴木五郎先生を迎えてから戦後の活躍が始まった。1953年（昭和28年）から1964年（昭和39年）までの12年間は、常に県高校体育大会の上位に入賞して優勝を目指せる位置まで上りつめていた。この頃は、会津地区のレベルが県

内でも最も高く、会津地区で優勝することが県で優勝することであった。県での優勝常連校は、若松商業高校であり、当然本校の部員も、打倒若商に燃えていた。

1966年（昭和41）に、若商OBで国士館大学卒業の飯田悟先生（1966年〜1978年）を顧問に迎え、昭和40年代から昭和50年初めにかけて大きな活躍が見られた。特に、1974年（昭和49年）の県高校体育大会団体戦で準優勝し、あと一步のところまで全国大会の切符を逃した。また、1977年（昭和52年）の県総合体育大会個人の重量級で、中島正人選手（現在、北海道刑務官）が準優勝するなど団体・個人でも大きな活躍が見られた。

1979年（昭和54年）に、若松商業高校で飯田悟先生の同級生である菅家博先生が顧問として着任するや、その手腕を十分に発揮され会工柔道部の第二次黄金期を作り上げた。1982年（昭和57年）からは県大会において常に団体・個人戦で上位入賞させるようになった。1983年（昭和58年）には、県高校体育大会個人戦中量級において、長谷川敏人選手（現在、富士通勤務）が初優勝し、全国高校総合体育大会に初出場した。この年から、県大会団体戦での悲願の初優勝を目指し優秀選手の補強や、レベルアップを図つた猛練習が続いた。当然、各地に遠征に

出掛けるなどして、その実力もかなりアップした。こうして翌年の1984年（昭和59年）、木村満月・小野里武・松本薫選手3名のポイントゲッターを擁して、県高校体育大会団体悲願の初優勝を成し遂げたのである。また、木村・小野里の2名は、この年の国民体育大会の福島県の代表選手にも選ばれている。

1986年（昭和61年）には、斎藤隆選手が国体代表戦において優勝し、彼もまた国民体育大会に出場した。1987年（昭和62年）は、遠藤雅一選手（現在、県立西会津高校勤務）が県新人体重別大会重量級優勝、全国高校柔道選手権大会県予選の無差別級で初優勝し、翌年3月に開催される全国大会に本校から初出場した。1988年（昭和63年）にも、県高校体育大会個人重量級優勝、国体予選には敵なしの状態であった。この後、彼は日本体育大学に進学し、柔道部の主将を務めるなど輝かしい実績を残した。また、大学在学中に全日本柔道選手権に出場した。

本県の教員として採用後も二回出場するなど、輝かしい実績を残した。さらには、1995年（平成7年）に福島県で開催された第50回国民体育大会柔道競技成年男子団体の大將を務め福島県成年男子チームの初優勝に貢献した。現在は、高校の強化コーチとしてその

手腕をいかんなく発揮しており、将来の県柔道界を背負つて立つてあると嘱望されている人物である。

1988年（昭和63年）顧問の菅家先生が病に倒れて他界した。以前から体調を崩されていたようであったが、将来を期待されていた計報は甚だ残念という表現しかできない。

1989年（平成元年）から1999年（平成11年）までの11年間は、高原啓二先生が県立田島高校から赴任され指導にあたつた。1996年（平成8年）には、県高校大会個人戦中量級並びに県総合体育大会中堅の部で伊藤卓選手（現在、若松商業高校勤務）が優勝した。この年彼は、全国高校総合体育大会への出場と国体予選の代表選手に選ばれている。

2000年（平成12年）に、川口高校から白岩格先生を顧問に迎えて現在に至っている。白岩先生は、会津高校の第三期黄金時代を築きあげた立役者であり、その指導方法には定評がある。先生が着任するや会津地区大会の団体戦を総なめにし、個人戦の優勝もほとんどを奪取するなどめざましい活躍であった。当然、県大会の上位入賞を狙える場所にながら、ベスト8止まりであった。会津地区と他地区のレベル差をまざまざと知らされているのが現実である。しかし、個人では県高校体育大会



# 根性一途



# 母校だより

## ものづくりは人づくり



教頭 渡辺 清見

「花に心は無いが、蝶を招くよ」  
 「蝶に心は無いが、花を尋ねるよ」  
 「花が開く時、蝶は必ず来るよ」  
 「蝶が来る時、花は必ず開くよ」  
 「吾も不知人、吾も不知人」  
 「吾は、他人のことをあまり知ってはいない」  
 「他人は、吾のことをあまり知ってはいない」  
 「不知従帝則」  
 「知らずとも、人は天の道理に従って生きるものよ」  
 この詩歌は私が知命を迎えた時、納得し其感を覚えた良寛様の詩である。自然界はお互いが無意識の内に必要な因果関係が保たれ、人間社会においては尚更のこと、一人の存在がいかに程のものであるとなかろうと、すべて自然の摂理であるという。

私の35年の教職人生のスタートは、JR水郡線沿いにある小規模の工業高校であった。その高校は山と川が四季折々に変化を彩るす大自然豊かな所に在った。私はこの

係の在り方が肝心であり、人間として必要なものは、生徒の生活環境に關係なく、身につけてさせてやらなければならない、という教育信念を持ったのである。

全世界に雄飛していることは言を待たないところである。これから卒業生たちも、本校の同窓生という貴重な絆を断ち切ることなく、有効に生かして社会の主役として活躍してくれることを願うものである。

すのは伝統に預かるところが大きいわけですが。しかし伝統があるといつてただ単に喜ぶわけにはいかないでしょう。むしろそれが辛いこともありま。輝かしい伝統、それを受け継ぎ守っていくことは並大抵のことではないわけでありま。

## 伝統について想へよう



教頭 白井 眞一

校歌第二番に「明治三十七春なかば礎堅くきずかれて」と謳われているとおり、本校は、今年で104年を迎える県内屈指の伝統校であります。

ですが、これだけでは済まされない何かメンタルな要素があるような気がいたします。そういう意味から、あえて生徒の視点で、それを考えてみたいと思います。

夏に一回予備試合のようなのがあつて、その時には私達は相手に軽く負かされました。それでも私達はまだ何となくして伝統を守りたい気持ちで一杯でした。諦めることなく練習を続けたのは唯この気持ちからであります。そしてあ晴れた日、私達は周囲の予想を

# The Present Condition

## 教務部から

大久保 甚一



破り奇跡的に勝ちました。(全く私にとってそれは奇跡としか思われませんでした。)この時、初めて私達は伝統というこの不思議なものをしみじみ考えさせられました。そしてそれを守り抜いたという喜びを、この上ない意義深いものとして、今でもしっかりと心に刻まれています。

日頃より同窓会の皆様には多方面からのご支援を賜りありがとうございます。今年度は建築インテリシア科が誕生してから3年目となり完成年度となりました。従って、各学年とも6学科7クラス、計21クラスで、836名(女子140名)の生徒が学んでおります。

## 進路指導部から

山野 敏



1 平成18年3月卒業生の進路状況(表1)  
 3月10日に卒業生徒316名中315名の進路が決定。(1名は、保護者の勤務の關係で、家事手伝いである。)図2に示した。

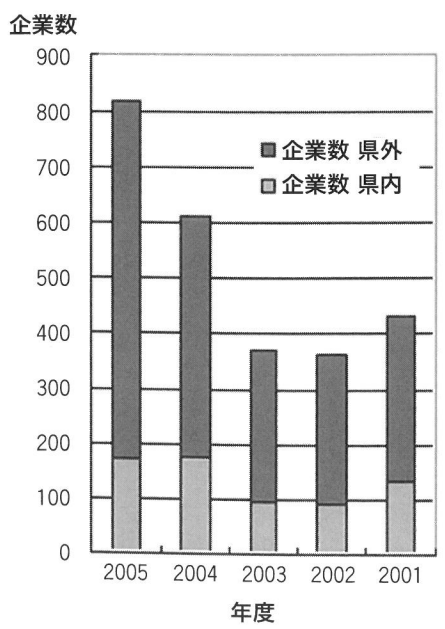


表1 進路決定状況

|          | 県内       | 県外       | 合計       |
|----------|----------|----------|----------|
| 就職       | 83 (15)  | 79 (9)   | 162 (24) |
| 大学       | 26 (4)   | 57 (4)   | 83 (8)   |
| 短大       | 5 (4)    | 2 (2)    | 7 (6)    |
| 公共職業開発校等 | 7 (0)    | 7 (1)    | 14 (1)   |
| 専門学校     | 18 (3)   | 31 (9)   | 49 (12)  |
| 合計       | 139 (26) | 176 (25) | 315 (51) |

せないまま学校生活を送っている。などが考えられる。今後は、①企業開拓 ②工業各科と連携しながら、工業



# 母校だより

人としての意識付けをしてゆく必要がある。

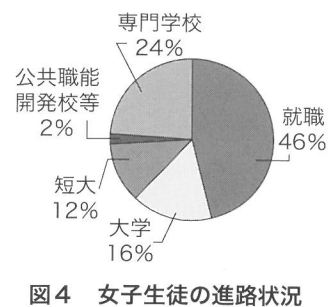


図4 女子生徒の進路状況

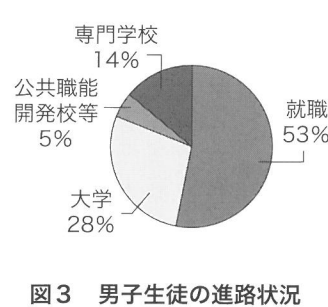


図3 男子生徒の進路状況

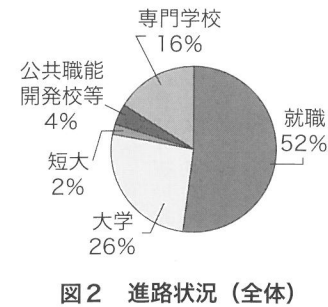


図2 進路状況 (全体)

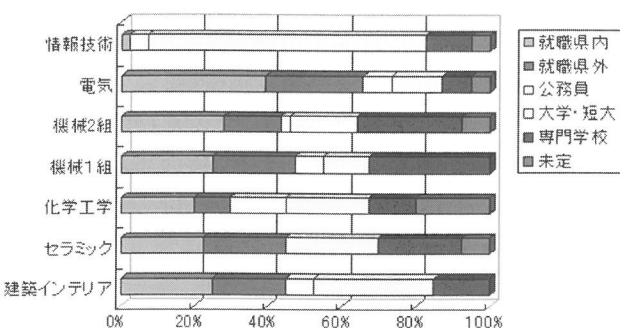


図5 平成19年3月卒業予定生の進路希望 (科別)

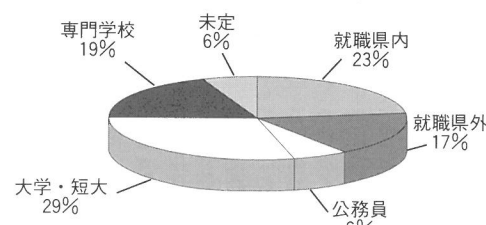


図6 平成19年3月卒業予定生の進路希望状況 (全体)

**2 平成19年3月卒業予定生徒の進路希望状況**

平成19年3月卒業予定生の進路希望状況を図5・6に示した。進学者の割合は、昨年とほぼ同じ割合である。しかし、就職希望者の割合が、前年度と比較し6ポイント減少した。

今後、全員の進路実現に向け取り組んでゆきたい。

**3 これからの進路について**

高校生の段階で、進路を決めることは厳しい。しかし、多くの卒業生は、大変さ乗り越えて自分の進むべき道を見つけ、社会で活躍している。

工業の専門知識や技術力を習得し、それを社会に役立たせること

が会工の使命である。

卒業生が築く「築いた」「会津工業高校ブランド」と、学校で学ぶ「ものづくり」の専門知識とが噛み合う事で会津工業高校の進路指導は、磐石になつていく。

進路指導では、08年大学全入時代に入入する。大学選びが大切である。原則は、「行きたい大学」を選ぶことである。多くの情報の中から本当に行きたい大学を選ぶ事は大変である。その為に生徒や保護者に、学校選びに参考となる情報を提供してゆきたい。

また、学力向上・家庭学習の習慣化から、進路補習を添削形式にした。実力をつけ、「行きたい大学」の範囲を広げることが出来ればと考えている。

専門学校希望者の多くは、進学先を安易に考えている。なりた

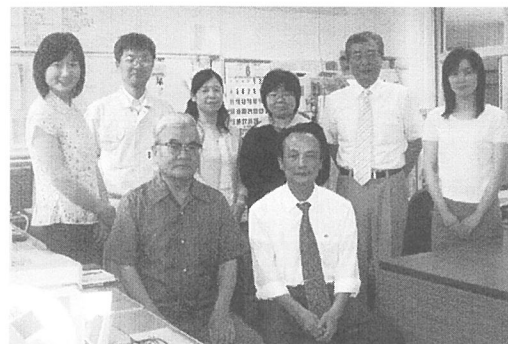
職業をしつかりと考えた学校選びが出来るように指導する。

公立校専攻や国立職業開発大学校などは、文部科学省以外の省庁が管轄している学校である。施設設備が充実し、授業料などで保護者の負担も軽減される。

公務員希望者に対しては、定期的に模試を実施し、現役合格を目指している。工業の専門知識を生かすことが出来る、「専門職」の公務員を目指すように指導してゆきたい。

## 4 学校教育力向上支援事業

- (1) 学校シラバスを作成し、「わかる授業」「積極的に取組める授業」などに活用。  
教科の学習内容や評価の基準を参考に、家庭学習に役立たせる。
- (2) 資格・検定ガイドブックを作成し、資格取得を推奨する。  
工業高校の特徴である資格を積極的に取得し、進路実現に役立たせる。
- (3) インターンシップ事業  
平成17年11月15日～17日の3日間、2年生276名を対象に実施した。協力事業所数は、104社であった。「職業観」「勤労観」等多くのことを学ぶことができた。  
平成18年度は、10月3日(火)～5日(木)の3日間、2年生278名(男子232名、女子46名)を対象に実施する予定である。昨年度の反省を活かし、生徒の希望を考慮しながら実施したい。
- (4) 技術力向上支援



平成17年度は、会津オリンパス杯の協力を得て、「旋盤加工技術力向上」を目指し、機械科の生徒が取り組んだ。11月に行われた「高校生ものづくりコンテスト県大会旋盤部門」で優勝し、東北大会に出場した。

今年も引き続き、会津オリンパス杯の協力を得て、「旋盤加工技術力」の向上に努める。具体的には、

- ① 「高校生ものづくりコンテスト全国大会」出場を目指す。
- ② 「技能士3級」取得を目指す。
- ③ 「平成18年度 高校生ものづくりコンテスト県大会」優勝を目指す。
- ④ 「行きたい大学」を目指すとともに、国立大学への進学を啓蒙する。

大学進学者の割合は毎年25%以上である。日常指導のほかに、夏季補習を実施して学力を補うと共に、家庭学習の習慣化を意識付けさせる。

# The Present Conditon

## 3学年から

### 総仕上げへ向けて

新学科の誕生と共に入学した学年も、いよいよ3学年へと進級しました。前年度の活動では、本校では初の取り組みである、学年全生徒が参加してのインターンシッ

## 3学年主任 佐久間智広

プが行われました。全生徒が各事業に割り当てられたため、希望通りの職種とはいかなかったようです。しかし、社会人としての基本的な人間関係やマナーなどの、どこにおいても必要となる事柄について身近に体験できたことは、生徒の今後に大きくプラスになるものと確信しています。また、普段の生活においても、昨年度に引き継ぎ、欠席、遅刻、早退の減少という点で生徒諸君の頑張りが見られました。さらに、部活動においても、体操やボクシングなどの全国大会常連の部をはじめ、その他の部でも、地区優勝、県大会上位入賞の部が目立ち、今後の活躍がますます期待される状況です。

ここからは、3学年の大きな目標である進路実現に向けての生徒一人一人の進路・就職戦線がついにスタートします。進学については少子化の影響で、就職については景気回復の兆しが見え追い風が吹きつつあります。この波に乗れるか否かはもちろん生徒自身の努力が如何に関わってくるわけですが、自信を持って挑戦できるよう我々も支援体制を整えているところであります。生徒全体が目的進路を実現し、悔いのない高校生活の総仕上げが達成されるよう、3学年担任一同祈念しています。

## 新採用



今野 貴行



竹中 睦

浜通りのいわきからここ会津に来て、本校生に対して感じていることは、とても礼儀正しく、優しいということです。口数が少ない分、心が深いような印象を受けました。これから会津の四季を体感すること、より一層生徒への理解が深められることと思います。常に学ぶ姿勢を持ち続けていきたいです。よろしくお願ひいたします。

## 平成18年度

### 学校創立記念講話

日時：平成18年4月14日(金) 午後1時から  
場所：南体育館

## エンジニアの松心構えを語る 若会工で創立記念講話

会津若松市の会津工高の学校創立記念講話はこのほど、同校体育館で行われた。講師は、同校を一九四二年(昭和十七)度に卒業した元重機メーカーエンジニアで只見町出身の五十嵐睦アです。



さん(ハ)。

五十嵐さんは昨年、七十歳以上で自立した人生を送る高齢者を表彰する「第5回ニューエルダーシチズン大賞」を受賞した。

重機メーカーを定年退職後、大手コンサルタントの理事を務めながら、さまざまな業種の工場などで、作業改善の指導に活躍している。

講話では「ものづくり我等の天地」と題して、ものづくりへの挑戦、エンジニアの心構えなどについて話しながら、生徒たちの前途に対してエールを送った。

生徒たちを前に講話する五十嵐さん



# 栄えある「松江賞」三〇年ぶりに復活!!

本校同窓会と松江奨学会では、松江春次先生を顕彰するため「松江賞」を30年ぶりに復活させました。各料、クラスから各1名を選び、計8名を表彰することになりました。松江先生は昭和14年、当時の国際情勢を鑑み、機械工業の重要性を痛感し、私財33万円を本校に寄付されました。今、機械科が備わり、工業学校が重要視されるようになったのは、一重に松江春次先生の功労があつてのことでありました。当時の33万円は、今の金額



松江奨学会吉田一栄理事長より授与される機械科1組代表皆川和慶君  
副賞 クリスタル製ペーパーウェイト

に換算すれば数10億円の大金になるといわれています。そのうちから10万円を財団法人松江奨学会の基金とし、生じる利子をもって本校の施設・設備の充実にあてました。また昭和39年度よりは各料の優等生の褒賞に活用して、松江賞の制度を設けました。しかし時代もかわり、10万円の利息では賞の運営費は足らず、資金の面で昭和51年に消滅しました。昨年、戦後60年をむかえ松江春次先生の人生のテレビドラマ化や、伝記出版、サイバ

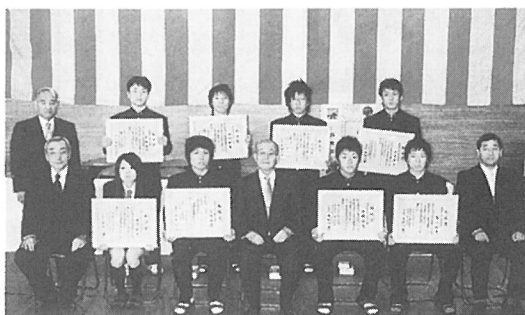
ン島での松江賞復活など、再評価の機運が高まりました。社会情勢の関わりから、マスコミにも取り上げられ、先生の功績や精神が再び注目を受けることになりました。生誕130年を迎え、先生の母校に寄せられた多くの業績を、本校機械科の生徒のみならず、全校生徒が感謝の念をもって讀めると同時に、先生の志に報いるために優れた技術者になることを誓うものです。

この趣旨に沿って「松江賞」を復活し、永遠に先生の功績を讀めるものとしします。ならす、全校生徒が感謝の念をもって讀めると同時に、先生の志に報いるために優れた技術者になることを誓うものです。



松江春次先生像  
寄贈：台座 小関栄助（職員）  
プレート 岩田善一（職員）

## 「松江賞」復活表彰



30年ぶりの「松江賞」を受賞した会津工業高の卒業生たち

## 会津工業高卒業生8人に授与

「南洋開発の父」と呼ばれ、江奨学会は、春次の功績をたたえ、若松市出身の美業、若い世代に伝える松江賞・松江春次（一八七六）を三十年ぶりに復活させ、一九五四年）を顕彰する同二十八日、同校で行われた市の会津工業高同窓会と卒業生表彰式で、卒業生八人に授与した。



サイパンの第1回松江賞に輝いた奨学生キース・ガバルトン君を会工に迎えて交流。

## 受賞者に聞く

### 平成17年度卒業生 松江賞を受賞して



私は高校に入学する時に、勉強を頑張る事。3年間H.R.長を続ける事。を自分の中で決めていました。テスト前は何時と机に向かい、泣きながら勉強した事を今でも覚えています。H.R.長の仕事は、私でいいの、いつも心配でした。来年はやめようと思いましたが、私が続けている事は意味のあるものなのか、と逃げ出した時もありませんが、今、続ける事に意味があるんだと分かりました。

私が3年間続けてこれたのも、先生方、両親、多くの励ましや支え、そして一緒に悩み一緒に取り組んできた友達がいなかったらだと思いません。松江賞を受賞した事に、誰かに自分の頑張りが認められたという喜びと共に、自分のしてきた事に意味があったのだと思えるようになりました。

松江春次さんという素晴らしい方の賞をいただき、心から嬉しく思っています。

### 「松江賞」を受賞して



「松江賞」をこれからの社会生活の中で、ほんの少しの事でも、正直に頑張ってきた。よく知りません。「松江賞」がそんなに名誉のある賞なのか。正直分かっていませんでした。よくいわれて、ただ普通に高校生活を送り、放課後、夜遅くまで部活動に明け暮れた毎日でした。その結果、3年生の時には部長になり、夏の全国大会であるインターハイに3年連続出場することができました。そんな私がクラスの代表として表彰されたことにまだ実感が湧きません。

しかし、この賞は約30年ぶりに復活したという、すごい賞だということを知らず、すごいうちの何かに集中しやり遂げると言うことは、大切だと言うことを改めて思いました。この賞を受賞できたことを、自分は誇りに思っています。是非、後輩達にもこの素晴らしい賞を受賞できるように頑張ってもらいたいと思います。

### 「松江賞」を受賞して



私自身、松江春次氏の事はあまりよく知りません。「松江賞」がそんなに名誉のある賞なのか。正直分かっていませんでした。よくいわれて、ただ普通に高校生活を送り、放課後、夜遅くまで部活動に明け暮れた毎日でした。その結果、3年生の時には部長になり、夏の全国大会であるインターハイに3年連続出場することができました。そんな私がクラスの代表として表彰されたことにまだ実感が湧きません。

しかし、この賞は約30年ぶりに復活したという、すごい賞だということを知らず、すごいうちの何かに集中しやり遂げると言うことは、大切だと言うことを改めて思いました。この賞を受賞できたことを、自分は誇りに思っています。是非、後輩達にもこの素晴らしい賞を受賞できるように頑張ってもらいたいと思います。

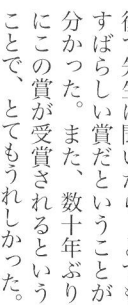
### 松江賞を受賞して



分が松江賞を受賞できるなんて思いません。最初は松江賞というものが、自分自身から分かっていなくて、賞なのかも分からなかった。後で先生に聞いたところ、とても素晴らしい賞だということに、数年前にこの賞を受賞されたというので、とてもうれしかったです。自分には代表にもなれて、最後の最後にもいい経験ができた。

このことを胸に、大学へ進学した後も、勉強やその他の事を一生懸命頑張っていました。と思う。そして将来、仕事に就いたときも、また頑張りたい。

### 松江賞を受賞して

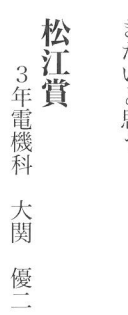


私は、高校入学当初から目標としていたことがあった。それは誰かが目標とする「文武両道」である。私がこれを目標としたのは、理由がある。自分の好きな部活に入り、精一杯頑張ることが誰にでもできる。しかし好きでない勉強と両立するというのは、なかなか達成できず、自分自身にとって大きなものとなるからである。

3年間では何度も手を抜くとした。部活が大変であつたり、2、3年では悪い慣れからのダラケも。だが日々努力と言いつつも、頑張りが続けたことができた。

この高校3年間は自分の中で目標を達成することができ、さらに松江賞という賞を受賞できたことは、とても光栄なことで大変うれしく思う。これからの社会の中でも、日々目標に向かい努力し続けていきたいと思う。

### 松江賞



私は高校生活の中で、もう少し頑張れば、もう少し結果が得られたら、と、何回も思いました。でもそんな私が松江賞に選ばれた時は驚きました。正直うれしかったです。

この賞をもらった時は、どのような意味が含まれているのかわからなかったのですが、会工同窓会報に載っていた記事を読んで、松江春次氏と会工との関係を知ることができました。サイパンの高校生が、第一回松江賞に選ばれていたこともわかりました。

私は、この賞に選ばれたことによって、サイパンとの深いつながりや歴史を学ぶことができた。これからは松江賞をもらったことを誇りに思い、いろんな意味で大きな人間になりたいと思います。ありがとうございます。



会長宅で



会津工業建築科への入学とともに「自分の限界への挑戦」を心に抱いた私は、様々な事に挑戦して行きました。その中でも力を入れたのは、専門教科である製図と、資格取得です。資格取得では、建築施工技術者試験や計算技術検定一級を初め多くの資格取得により、ジュニアマイスターゴールドを受賞することができました。

しかしこの資格も試験間近にしか勉強をせず、毎回のようにならざるを得ない。そんなある時、クラス担任の内藤隆朗先生に「資格取得のために勉強するのは、本当は勉強をするから取得できるんだぞ。」と言われた事がありました。その時は「ただ言い方が違うだけじゃないの」と思っていました。今日その言葉を振り返ると、大きな違いがあることが解ってきました。もし、これを見ている人がいたら、この違いを見つけてみてください。



この度、「南洋開発の父」である松江春次氏をもとに作られた「松江賞」を受賞させていただき深く御礼申し上げます。

最後に、先生方、両親、多くの励ましや支え、そして一緒に悩み一緒に取り組んできた友達がいなかったらだと思いません。松江賞を受賞した事に、誰かに自分の頑張りが認められたという喜びと共に、自分のしてきた事に意味があったのだと思えるようになりました。



## 私の会工会との出会い その時歴史は動く

(昭24丁卒) 五十嵐 榮

(東京会工会々員)



復興半ばで地下鉄が開通したばかりの古巣に、1958年4月東京から転勤を命ぜられた。新生活に馴れた頃、同窓会と学校長名で創立60周年記念改築五ヶ年計画の協力について、依頼状が配達された。その後、新田義一同窓会理事長から電話があって、募金の協力について、東海会工会設立についてよろしく頼む、との切々なる言葉。そして小湊先輩を尋ねるよう、とも助言があった。私にとってこの時が「会工会運営のための出会い」であった。

同窓会名簿を頼りに人材を求めて、東海三県を歩いた。その間、愛知県庁勤務の石部氏、愛知瀬戸の大和製菓常務の小湊氏、岐阜大垣の渡部氏、三重四日市の関西金融社長の皆川氏などを尋ね、切々と相談するうちに大きな力を得、基礎造りに賛同出来る夢が浮び、又、募金についても思ったより温かい協力があつた。一番近い石部氏と打合せを重ねて大きく前進した。本部に報告した。すぐ新田議長が来名され、小湊・渡部・皆川・石部・五十嵐と打合せ協議の結果一応の東海会工会設立の準備が決定された。

1961年6月7日、名古屋駅前名古屋共済会館に於て、会員および来賓55名出席のもと設立総会が盛會裡に開催され、小湊新(明42K)会長・渡部信意(大15丁)皆川明(大15K)副会長・石部一(昭9丁)幹事長・五十嵐

榮(昭23丁)総務幹事の三役および纏め役(その他省略)役員が選ばれ、新規約が承認されスタートした。その時歴史は動く。私の人生で忘れられない日であった。

当地区は昭和10年代に、修学旅行や生徒の就職活動のため先生方が来名の折、先生方を囲み懇談会のような集まりをもっていた。小湊新氏が所持していた「会工会東海支部」名簿を拝見したが、会員は64名で小湊氏が代表となっていた。さきの大戦で中断されたまゝであった。戦後再三の復活の呼びかけにも拘らず実現しなかった。

1963年発行の東京会工会々報に「驚いた後輩」と題して、又、1964年発行の会工会同窓会報に「募金の陰の功労者」と題して、当時の様子を新田議長は詳細に報告している。

大学の同窓会しかなかったが、今度は高等学校同窓会が出来て、何はともかく世界が広く感じ、長い人生の旅路で同窓会が心の安らぎの場であり、人生の応援団でもある。私はその後の活動状況について1969年発行の同窓会々報に「東海会工会便り」と題して詳細に報告した。今日、東海会工会が立派に運営されて居る姿をみる時、よるこびに絶えない。1971年4月に大阪に転勤し、そして1976年12月東京勤務を命ぜられ、久々振りにUターンであった。翌年1月、同級生仲間淳君から電話があつて、歓迎会を行うから土曜日夜刻、新橋駅烏森口に集合、とのことで出掛けて行った。今日は、是非会いたい、と云う人が居て設置したと云う。駅近くのバー「セブン」に案内された。その席で井上眞市東京会工会々長はじめお会いした。会長曰く「名古屋での努力に感謝していた。感謝の意を表したい」会津の青豆を摘み乍ら、杯をかたむけ語り合った。

1979年12月、四回目の転勤命令、九州福岡。当地は山口県・九州全域が同一経済圏で福岡事業所の担当で、薩長の敵陣に乗り込んで

だ。私の人生で一番楽しい思い出の時代となった。その後、他地区を経て1986年12月3たび東京勤務となった。引越して多忙を極めて居るところに「東京会工会懇話会新年会」の案内状が配達された。新年早々に会場の日本橋「佐々木」に出掛けてみた。久しぶりの面談であった。何か挨拶をと申され、簡単に言葉を述べたのを思い出す。その後、井上会長から長文の手紙が配達された。

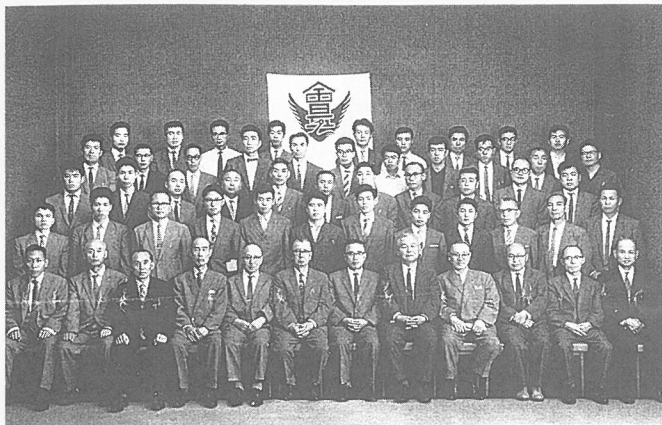
「酒を呑んでは無理のある話はダメなので、東京会工会の現況をかいきつまで書きまます。年次総会減少して来て総会不成立をおそれ流会にし、会場ルビーホールをキャンセルと云う次第。通信費をドブに捨てるような手応えのなさが続くので暫く冷却してみようと考えたわけ、例年「さつき」のスキヤキパーティーで新年会をしているだけで(書翰より)。手紙を手にした私は数日熟慮し、井上会長に電話し、何とか賦活再生のため努力してみましよう、従って時間を与えて下さい、と返事した。そして私は、ともかく賦活再生のため歩いた。私の頭の中に浮ぶ人・人・人を尋ね、心強く面談し意見を交換し協力を依頼した。中でも大勢の卒業生の居られる埼玉浦和の齋藤工業株式会社には大変お世話になり、大きな力を頂いた。又、企業経営のオーナー大きな賛同を得た。ともかくクラスメートの応援が大きな成功のパワーであった。感謝感謝で一杯である。一応の見通しが浮び、人事についても、新規約についても考えがまとまったので、井上会長に報告し打合せを行い、最終的には1989年10月上野「まるはち」に於て、具体的問題について臨時総会準備会を開いて協議し、新規約および人事を内定し大きく前進し基礎を確立した。

会長から、会の運営は幹事長が中心でなければならぬので貴方は幹事長を務めてくれ、との要請があつたので自ら幹事長(副会長兼務)に就任して、新しい会工会を発足させた。1990年6月、浅草「ニューオータニ二会館」に於て東京会工会設立八十周年記念総会を開催し、新規約および役員人事が承認され、ここにスタートした。当日は会員および来賓116名が出席し、大盛會であった。拍手はいつまでも続き、この時歴史は動く。

私は感動のあまり、井上前会長と抱き合つた。井上氏の眼から涙がこぼれていた。その後設立80周年記念特集号を発行したが、その中で井上氏は巻頭言「首途を祝う」と題して次のように述べている。

「同窓会に尻尾くっつは不要で、地べたを這い、水を潜るほどの行動力こそが否応なく人心を集めるのであり、そのことをこの一年余の五十嵐君ほかの動きに訓えられたと思つている。新しい執行部について言えば、たのみ甲斐ある人材が重疊していることを第一に挙げたい。全ては人であり、いい時に良き人を得たと云う思いを超える感慨はない。……(特集号より)」

あれから10数年の歳月が流れて、今日大きく発展している姿を見る時、後輩諸君の努力に敬意を表したい。今後、会工会が永遠に発展あらんことを祈る。(2005年・11月記) 筆者プロフィール 日本キリスト教団春日部教会会員 日本教育書道芸術院師範 明治学院大学白達会会員 1973年2月 通産大臣表彰を受く 1995年11月 東京書作展特選受賞



## 会津を離れて想うこと

(昭31C卒) 大竹文夫



会津の地を離れて50年、未だ会津生まれの会津育ちと思つている私です。人に出身地を聞かれると福島県と言わず会津と答えている。こう答えることが多くて、「いい所ですねえ」と褒められることが多い。会津には歴史と伝統がある。それは歴史が証明してくれている。

会津人と言うと根性とか忍耐とかに解されているが、私は「義理と人情」だと思つている。最近、国際化だ、グローバル時代だと言われて個人優先の世になりつつあるが、人間の一番大切な「義理と人情による人との絆」を忘れてはならないと思う。

私は現在京都に住んでいるが、残念ながら会津工業高校は一〇〇年の歴史がありながら知名度がない。

毎年夏になると思う。一度でよいから甲子園に出て会津工業高校ここに有りを示して欲しい、と願っている。

今こそ会津精神を持つ我々会津人が、忘れられつつある「義理と人情による人との絆」を、世界の人々に広めたいと願つてます。

## 転換

(昭24M卒) 児島正俊

渋谷の画廊で難民支援のチャリティ特別展が開催された折、立ってピラを配布した時のことを思いだす。趣旨を理解して微笑んで受ける老人もいた反面、一瞥もくれずに通り過ぎた子供達が多かった。他国の不幸など全く気に懸けない彼らは、ただ自己本位に物質的な価値を求め

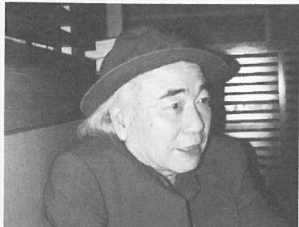
ている様にしか見えなかった。

人間が持てる物質的な領域には生物としての限界というものがあつた。しかしながら、現代の科学は時空を自由に操ることが出来るが如くに錯覚され、遂には、あらゆる機能の高速化が、地球は小さくなったと、錯覚させて、また、ひとつの優越意識を獲得する方便として、嘗てなかった巨大なるインターネットなるものまで、登場させるに至つた。



然しながら、この様な状況のみでは、グローバルな拡大はあつても、皮相的なアイデンティティのみが得られるのみで、人間の内面まで見る本質的な一本性は理解出来ない。

嘗て子供たちは、(風の子)、(陽の子)と呼ばれ、寝る時間以外は、殆どアウトドアであつた。遊びはすべて、(手のうちの空間)であつた。他人の心の内までも良く見えた。見知らぬ子供も、即座にその場で遊びに参加出来た。他人を見るのが、自分を見るのが、自分を見ることに通じていたとも言える。



自分に関わる環境を今こそ大切にせねばなるまい。その行動のなかで自然に対しても、あるいは人間に対しても、思考をこえた感性として魂の最も根源的なコレスポンダンスの在り方に、創造的に転換せねば、現代社会の閉塞状況から脱出、そして飛躍することは到底出来ないだろう。

## ねじが弛んでいないか

(旧職員) 赤城良一



私が初めて会津工業の電気科教員になったころ、電気科長だった菊地蔵先生は、若手の私たち生徒たち、常に

「ねじが弛んでいないか、ねじをしつかり締めなさい」と厳しく指導された。実験が終わって測定器から電線を外したあと、接続端子のねじをしつかり締めなければ、何時の間にかねじが弛んで外れて紛失し、次の実験が出来なくなるというのである。実験が終わる度に生徒に指示し、そのあと確認の点検をして実習を終っていた。

最近、技術関係で事故やトラブルが相次いでいる。近くは鉄道の脱線事故、飛行機の部品脱落、原子炉への工具落下、ウラン溶液の臨海事故、それに只見線の鉄橋落下等々、枚挙に暇がない状態だ。何れも作業手順や点検作業、マニュアルどおりに実行していれば防げたもののようにだ。作業員は「慣れ」の中でねじを締めるのを忘れ、責任者は点検を怠った結果ではないかと考えている。

終戦後、会工祭は若松市民にとってミニ博覧会だった。会工の先生たちもこの会工祭には異常なほどの情熱を傾け、生徒もそれぞれのテーマを決めて、日が暮れるまで製作に取り組んで頑張る生徒も出てきた。そして出来上がった二足歩行ロボット、電子オルガン、リニアモーターカー、展



開式テレビなどに、2万人を超える見学者は驚嘆し、称賛の声を贈つてくれた。この体験は、卒業生のその後の人生に大きな自信になったものと思

う。

いま物作りの現場で、団塊の世代の定年を目前にして、技術の伝承が問題になっているという。現場の年齢構成に断層があつて、理解させるのが難しいらしい。工業高校でも、20数年前も前にこのことが話題になった。旋盤の操作が出来ない先生や、ハンダ付けの出来ない先生が増えてきていたのだ。

最近、小・中学校で、子どもたちの理科離れ、数学嫌いが問題となっている。小学校でもパソコンを利用した授業が盛んになったようだが、仮想体験では五感に磨かれない。教師が自ら実験をやつて見せ、生徒に手をとつてやらせているクラスでは、理科教科に興味を持つ子どもが増えているようだ。

資源の少ない日本、いま物作りの喜びを体験させるとともに、あらゆる場面でねじを締めることを教える必要があるように思う。

## 松江春次先生の思い出

(25回M卒 旧職員) 三浦多可志

私が会津工業高校の機械科に入学したのは昭和19年でした。戦争もまだ不利になりあちこちで日本軍玉碎(全滅)が報じられ、若い男は殆どが、心ならずも戦員として戦地に駆り出され、300万人が白木の箱(白骨)で帰ってきたという、そういう時代背景でした。そして間もなく翌年、広島・長崎に新型爆弾(原爆)が投下され、日本はやむなく無条件降服となったことがご承知の通りである。前置きが長くなったが、ここで会津工業高校の大恩人松江春次先生のことについて書くことにする。

昭和14年南洋興発社長シユガーキングと尊称された先生は、機械技術者の必要性を痛感され、当時の工業学校にその創設費として33万円の私財を寄付されたのである。

このお陰で旋盤・ボール盤・フライス盤・ミリング盤などと設置した機械工場をはじめ製造実習所・木工実習所・鍛造実習所などが設置され、機械科の生徒は当時の先端技術を習得することができたのである。

さらにもう一つ忘れてはならないのは、機械科設置のため運動場がなくなるために、鈴善工



# contribution

手をおくれる先輩に私はなりたい。

## 「野口英世と

### 渡部恩育とのかわり」

(昭21M卒) 鈴木 仁



野口英世博士の功績は世界的にも有名であり、1000円札の表紙にされた事により、日本中に改め、クローズアップされました。衆知の様に渡部恩育医師の手術により奇跡的に成功したわけですから、医師の生み育てたのは西会津町野口の研機堂塾長であり、漢方医の渡部恩育であります。

**夢持続**  
(昭41C卒) 千葉鉄雄  
卒業して30数年、自分なりの人生観で歩いてきました。現在経営をなさる立場で若い時の夢をまだ追いかけています。  
会工高創立一〇〇周年おめでとうございませう。私の卒業当時、国勢は東京オリンピックに向けての上昇、その反動での急激な下降。いつの時代も大なり小なりたえず変化しています。その変化に対応するのは自分であり責任をとるのも自分です。  
卒業後数年は不本意な職場、仕事かもしれませんが、助走の時と思い、「自分にあつた、好きなもの」を見つけて下さい。そのベイスは皆さんの多感な年令の時の「夢」「思い」ではないかと思ひます。それをいつまで持続できるか。  
「あの頃は熱く燃えていたな」そんな独り言をいう機械が多くなった私の年令、でもまだ「夢」や「思い」はあります。  
レールの上をつらばしる時代は終わりました。急がないで、自分に合った道や山を探して下さい。いつの時代も「若い」ということは未熟だけれど元気があります。そう言う「若さ」に拍

めたので、よく観(み)て頂きたい。あなたならこの図形から何を見立てられますか。  
公園の桜花は、今年もハラハラと守護神の目の前で散っていった。

## (昭27E卒) 新井田 武男



最近何となく世間が騒々しい。子供を犠牲にする卑劣極まりない犯罪やライブドアにみられる、金の為なら何でもすると言う風潮等、あきれるばかりである。一方、戦後の僅かな一時期を除いて我が国では自民党中心の長期政権が続いてその結果、敗戦からたったの60年で憲法改正の論議が最近とくに活発になっている。このまゆげは早晩憲法は改正され、その先には必ずや徴兵制度が実施される様な気がして、大変心配しています。私が小学校2年の時の昭和16年12月8日に始まった太平洋戦争は、私の小さな心に大きな感動感激を与えました。子供心にも早く大きくなって天皇の為、国家の為、戦地へ行って一人でも多くの敵兵を殺してやりたい、と毎日々々そればかりを願っていました。そう云う教育を朝に晩に徹底して受けていたからです。ですから4年後の6年生の夏8月15日、敗戦と云う結果で戦争が終った時は、生れて始めての挫折感と深い絶望感を味った事を、今でもはっきりと覚えています。そうした体験から私は、戦争はどんな理由があつても絶対にしてはならない、と固く思っています。戦争はイラク戦争の例をみる迄もなく、常に弱い者、子供や女性老人など大勢の市民等が犠牲になるのが目に見えています。戦争に正義など絶対ないのです。あるのは当事者(国)間のエゴイズムだけです。戦争放棄をうかがっている憲法九条は、皆んなで守って常に平和な日本でありたいと私は願っています。

## 赤道直下の国にて

(昭43E卒) 内川義則

2005年、12月5日の手帳と記録メモを読んでみた。12月5日、午前5時50分、スコールの音で目が覚める。昨夜10時ごろもスコールがあり、11時ごろホテルのレストランで遅い夕食となった。ここは、赤道直下の国、マレーシアのクアラルンプールである。2005年メカトロニクス国際会議出席のため訪れた国である。昼間は30度を越え、真夏日が続いている。この時期、日本は寒波の中にあり、厚手のセーターとコート、マフラーを着込み、成田空港を前日の4日、午前11時30分に飛び立った。会議場となったマインズビーチリゾートホテルは、クアラルンプールの中心から車で30分ほどの湖のほとりにあるコテージ型のホテルである。ラウンジから湖を見ると砂浜に続く庭には池がある。滝を流れ落ちる水の白さと熱帯の緑豊かな植物の鮮明な色の対比、さらに椰子の木々が紺碧の青い空に向かって伸びる風景は、南海の孤島に漂着したロビンソンクルーソーを想起させた。しかしこの想いは、目を湖面に沿って対岸に転じるとベルシャ風の青い塔をもつモスクが目につく。飛び込み、マレーシアは回教の国である現実に引き戻された。ロビーには、世界各地からの参加者が会議受付のために列を作り、スカーフに身を包んだ民俗衣装の女性が親切に対応していた。会議は12月5日から8日までの4日間である。手帳とメモをさらに読み進む。市内に向かうワゴン車の運転手がインドネシア出身で、そして好んで教える。王宮や国立モスク、古いヒンズー教寺院の見学、さらには運転手と昼食を共にしたことなどが記録されていた。「時間」には「時間単位」としての「物理的な時間」とともに「長短や進みの速さ」がその時の心理状況によって異なる「心の時間」の二つがある。ここに示した文字の記録は「静止」して

## 「武士道」

(昭27C卒) 佐竹重男

55、6年位も前のことになるうか。当時、中学生から高校生になつての私は、人手の少ない母の実家に出掛けては農家の手伝い等で過した。その家の座敷には一幅の書が掲げられてあり、「全吾真」源 容保とあつた。

源容保公が最後の会津藩主松平容保公であることは承知していたが、或るとき私は、その書を「ゼンゴシン」と読んで、偶然(タマタマ)傍にいた祖父がそれを聞き、「フレマコトヲマツトウス」と読むのだと教えて呉れた。最近、会津のキャンペーン等では「武士の国会津」のキャッチフレーズを盛んに使用しているが、私は「武士道の国(里) 会津」であると思つてゐる。

昨秋も早乙女氏や藤原氏等が風雅堂において、武士道について話をされておられたが、私は今、武士道とは、と尋ねられたら「真を全うすることである」と応へるであらう。当時、容保公に於ける「真」とは、保科正之公以来の家訓に従つて徳川宗家、延いては徳川幕府に尽くすことであつた。また更に、京都守護職に於ては、天皇に忠誠を尽くすこともあつたであらう。このことは、容保公が孝明天皇から御宸翰を頂いていたことから伺ひ知れる。

一方、会津の武士団にとっては、藩主の方針に従うことが「真」であり、これを遂行することが「全うする」ことであつた。この為に、戊辰の戦いで会津の藩士達は血を流し、多くの命を散らせたのである。「全うする」とはそのようなことであつた。更に会津藩士の婦女子達も娘子軍として真を全うした集団であつた。「全吾真」は武士道の真髓であつて、それを最後まで捨てなかつたのが会津藩であり、実現された場所が会津の地であつた。

いるが、当人にとっては物理的であつて心の時間にもなる「動く」記録である。

## 応援歌

(昭27K卒) 安積藤吾

54年前の昭和27・3月に素業科を卒業して、同僚4人と、当時クリスタル硝子と光学硝子を製造していた、現在のHOYA(株)に入社しました。22年後の、昭和49年のオイルショックに巡り合せ、会社は合理化人員削減の実施となり、私は退社させられ、メガネの販売仕事を修業し、昭53、3月に会社を設立し、現在年商1億5000万円の会社に育ち、現役で頑張っております。この頑張れた根源は何であつたろうかと想ふ時、色々と有る中で、やはり、昭21年4月会工に入社した時の、恐い先輩方による、毎日毎日くりかえされた校歌と応援歌の練習にあつたと思ひます。「至誠勤労一筋」を、6年間事あるごとに歌つた事が、体に染み込んだものと思ひます。転職してから現在に至る迄、決して順風満帆ではなく、逆に難関辛苦の連続でした。これも、会工魂とも云うべき「そばたつ嶺は険しく、寄せ来る浪は荒く」とも、これを活舞台。又、応援歌の「頑張れ頑張れ頑張れ健男子」が、人に贈る歌よりも、自分が、自分に送る歌なんだなと思ひました。我が会工出身者は、真白で気品高い鶴を校章とし社会人のスタートを切る事を思い、校歌、応援歌を思い出し、自分へのエールとして頑張らましよう。よくTVの天気予報の放映後の時、会津若松市の雪景が映り、必ずその真中に白い鶴ヶ城が、気品高く出て参ります。会津のシンボルであり、これ又、応援歌と受け止めております。

## 最近みつけたもの

(昭28K卒) 津田 進

拙宅の近くに公園がある。郡山市が管理している史跡「富田八郎」の「水神館」を公園に指定したものである。「館」といっても建物はなく、あるものは土塁のみで、その周辺部や土塁上に松や桜の樹木を植生させてある。

公園入口にある案内板によると、戦国時代末期(天正の頃)1600年頃に館主・富田能登守が築城したと伝えられるが、実際には使用されず土塁(築城)の段階で終わった様子が書かれている。富田氏といえは、中世会津で活躍した一領主(北会津・下荒井)の富田氏と、どのような関連性があるのか不明であるが、ざつと数えて四百年ぐらゐの昔の話になること、いわばこの水神館公園は、歴史のある「館公園」であることに変わりはないものである。

実は、この公園の中を毎日のように通過してきたのであるが、また園中の樹木を一本一本確認する様な眼差して、観(み)てきたことはなく、いつものように公園内散策中、老木を仰ぎみて、その枝ぶりや幹の色調・かたちなどそれとなく眺望していたら、実に「妙」な「相」の松の樹に出逢つたのである。よくみると、それは「面相」であり鬼面か般若面にみえるのである。次の瞬間これこそが水神館の守護神か、あるいは「水神」そのものの姿にみえるのであつた。



もちろん、この話題は全く個人的な体験・視覚的な経験・形骸に對する一種の思い込みと形のみえかた例示になる。妙「な」形態を写真におさ

## なぜいま

### 「あいつの言葉」か

(昭26L卒) 宗像 精

わが国の教育現場(家庭・地域・学校・職場等)が確たる不易の指針を失いながら、場当たり的な指導しか思ひつかぬ混沌の時代は、思えば戦後からずっと続いてきたのではないか。かつて日本は儒教的モラルというものがあつた、非常に分かりやすいかたちで青少年の訓育がなされてゐた。

「五常」という五の常識がある。「仁」「義」「礼」「智」「信」である。概念的であるので、教育の場では解説を要し、その上「修身」がなくなり、それに代わる道徳教育にも格差が生じ、必ずしも充分ではなかつた。したがってこれらのモラルは、少年たちの心から少しずつ消えていった。それでも礼・智・信は、社会生活と密着している。いや、形を変えながら寧ろ偏重されているといつてもよい。おそらくこれらのモラルは、元来が儒教固有のものではなく、西洋的アメリカ的モラルの中にも存在したので、多少ニュアンスが変わっても存続し、且つ偏重されたものと思はれる。

いま少年たちの心から消えようとしているのは、「仁」と「義」の精神である。「仁」は、他者に対する思いやりの心であつて、高学歴社会の過当競争の中では死語と化した。多分「仁」は、戦後自由主義と相容れなかつたのだらう。今日では「福祉」とか「ボランティア」という形で社会に組み入れられるはなくなつてしまつた。「義」は、人の道であるが、これも法治国家の名のもとに死語と化してしまつた。法律を犯せば悪い奴で、法に触れなければ悪くはないのである。しかし、本心にそれではいいのだから。私たちがこの国は、仁と義の精神を法に委ねる愚をせつせと繰り返した。我が国が世界にも珍しいほどの治安のよさを維持してゐたのは、儒教世代が社会を牽引したからである。仁と義をわきまめくこの先、どのような世の中になるかは自明である。犯罪の急増と数々の凶悪事件は、その確かな予兆のような気がする。

# contribution







# 競泳日本選手権日本新

平15 F 卒 山口 雅文  
中央大学

## 競泳日本選手権男子50背予選

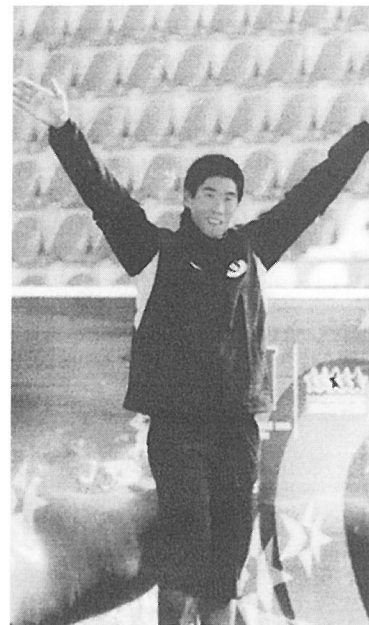
山口(中央大) 25秒53 日本新

決勝は3位



山口雅文選手

日本新記録を樹立した。従来の記録を0秒05短縮した。決勝ではアテネ五輪銅メダリスト・森田智己選手(セントラルスポーツ)に記録を更新(25秒39で優勝)され、山口選手は3位となったが、県勢が競泳個人種目で日本新記録を作ったのは平成元年(18・23面に関連記事)



# 市議会議長就任

昭42 M 卒 佐藤 義之  
会津若松市



「平成の大合併」県内第一号となった会津若松市と旧北会津町の合併が会津若松市議会議員として見守られてきた。県内十市のうち八市は合併で生まれ、新たな市町村の間に合併調整委員会がある。行政サービスなどの水準の違いをいじめ、市民の意

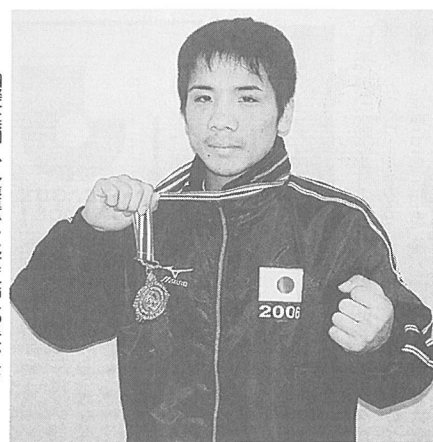
## ボクシング

平18 F 卒 佐藤 大吾郎



# 国際ボクシング大会で「銅」

平15 C 卒 須佐 勝明  
東洋大学



北京五輪に手応え

国際大銅メダル獲得で、北京五輪への手応えをつかんだ須佐選手

今月5日から10日までタイで開かれた第28回キングス国際ボクシングトーナメントで、日本代表として出場した須佐勝明選手(東洋大4年、会津工高卒)がバンタム級で銅メダルを獲得した。須佐選手は15日、銅メダル獲得の報告のため福島民友新聞社若松支社を訪れ、「北京五輪を目指しキャリアを重ねたい」と意欲を語った。同大会には、世界14カ国のアマチュア選手が出場。須佐選手は、インドネシアで3月開かれた国際大会の金メダリストを破るなど、大健闘した。須佐選手は、高校時代からボクシングを始め、インターハイなどに出場。東洋大に進んだからは昨年10月のおかやま国体、11月の全日本選手権大会で優勝、2冠を達成した。須佐選手は、今大会について「いいプレッシャーがあり、積極的に攻めることができた」と振り返り、「足を使ったボクシングを強化したい」と力を込めた。会津工高ボクシング部顧問の篠原宏和教諭、県アマチュアボクシング連盟会津支部の石田典男顧問が同行した。

# 大賞ユニークな感性光る

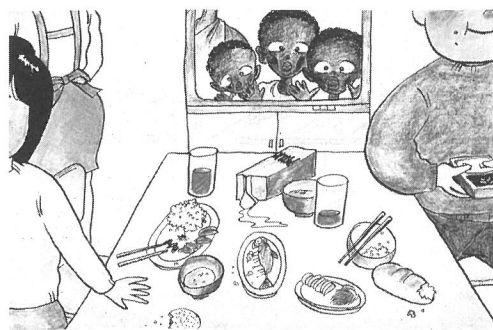
昭56年 A 卒 旧職員 管家 慶広

「ゴチソウサマ。」…ナノ?



【評】さすがベテランの腕と感心した。日本のぜいたくな生活と、他国の食生活をうまく風刺を効かせている。食べ残した食卓のありさまを細かく表現しているのがうまい。あえて人物の表情を描かず、飢えに苦しむ子どもたちに焦点を合わせた。

今回の作品は、作者の感性が光る。作者は、社会の動きや流れに敏感で、その中で生きる人々の姿を、鋭い眼光で捉えている。作者は、社会の動きや流れに敏感で、その中で生きる人々の姿を、鋭い眼光で捉えている。作者は、社会の動きや流れに敏感で、その中で生きる人々の姿を、鋭い眼光で捉えている。

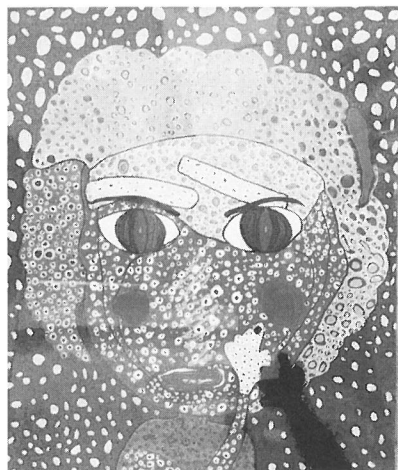


# 「福島県美術賞」を受賞

一年セラミック科 高橋 克之

10年ぶりの快挙

6月25日、福島県総合美術展の洋画の部で「福島県美術賞」を受賞。高校生の受賞は10年ぶり。



# 本校職員もがんばっています。

## 本県チーム連覇

平8年 E 卒 職員 渡部 訓生

## 全日本教職員バドミントン大会 本県チーム連覇



一般男子団体で優勝した本県チーム

第44回全日本教職員バドミントン大会は7日から11日までの4日間、宇都宮市で開かれ、一般男子団体で本県チームが二連覇を果たした。日本バドミントン協会と日本教職員バドミントン連盟の主催。小中学校や高校、大学などの教職員が出場し、年齢や性別ごとに分かれて団体、シングルス、ダブルスで優勝を争った。一般男子団体では13都道府県がトーナメントで戦った。大塚均監督(勿来高)と斎藤直(原町三中)、竹入賢一(原町三中)が入賞した。

このほか、一般男子シングルスで二瓶良、40歳以上ダブルスで優勝を争った。男子ダブルスで斎藤直・二瓶良がそれぞれベスト8にと斎藤直(原町三中)、竹入賢一(原町三中)が入賞した。

## 表彰

職員 鈴木 聖也

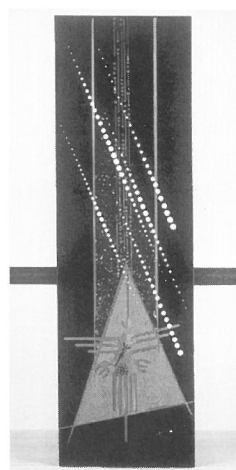
平成18年6月に、福島県高等学校体育連盟より、体操種目の指導の部で表彰された。



## 漆の美展 出品

昭54 L 卒 職員 岩渕 浩之

日展八回入選





# 学び舎 ロケーション 1 専門課程は、いま。

## K 建築インテリア科

■主任 二瓶 賢一

平成16年度より、「建築インテリア科」がスタートし、本年度から3学年の在籍となりました。

教職員については、昨年まで建築科・インテリア科で指導された内藤睦朗先生・菅原健治先生・渡部雅昭先生が退職されました。また、高橋弘光先生・黒澤静子先生が喜多方工業高校・二本松工業高校にそれぞれ転出されました。

科の内容は昨年同様、これまでの建築科・インテリア科の伝統を受け継ぎ、両科の内容を融合して、建築インテリア技術者を育成することを目的とした内容になっています。



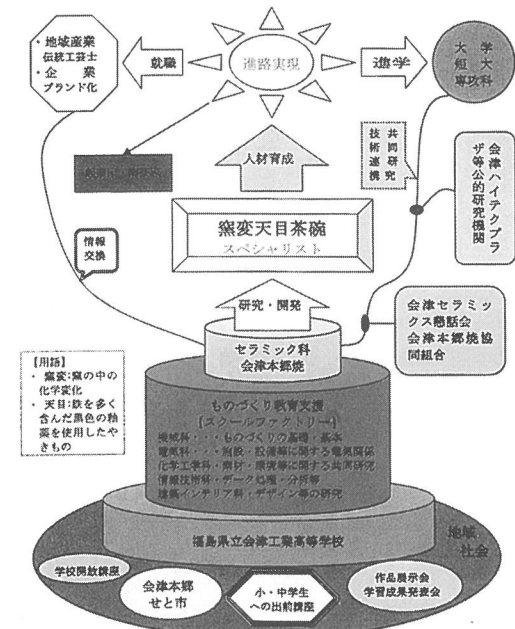
具体的には、座学（教室で学習する科目）を「建築インテリア構造」等インテリア系の科目を融合した学校設定科目により学習します。また、実習においては木造建築や測量、建築材料実験などの建築系の実習の他、家具製作や漆芸・乾漆・CGなどにも取り組む、幅広い知識と技術を身につけていきます。

生徒も「ものづくり」に関する実習には積極的に取り組み、工夫を凝らした作品を作っています。特に3年生の「課題研究」の授業では、生徒自身がテーマを設定し、研究しながら作品の製作を進めています。

## F セラミック科

■主任 佐藤 正道

窯変天目茶碗の制作を通じたスペシャリスト育成への挑戦



校では、鉄を含んだ黒色の釉薬「天目釉」を用いた陶磁器碗の再現、新たな釉の開発を目指します。

具体的には、セラミック科を中心に他学科と連携しながら、窯の中での色・結晶等の化学反応（窯変）、調合割合、焼成条件等を科学的に研究します。また、研究では会津本郷の窯元、県ハイテクプラザ、会津大学、日本大学等との産学官連携のもと、技術指導を受けながら三年後には実用化と地場産業の振興へ繋げていく予定です。

備えたスペシャリストの育成を目指します。

オンリーワン・ナンパーワンにもなれる研究テーマです。生徒に夢と希望を与えつつ、結果を出せるよう生徒職員一丸となって取り組んでいきます。そしてより一層、地域から期待され、求められる人材を育成してまいります。



## C 化学工学科

■主任 石崎 晃

昨年度の本科卒業生39名（担任大河原茂教諭）は、様々な偉業を為し遂げた。先ず、校内漢字テストであるが、クラス年間平均99・4、全員優秀賞を取り学校長より年度末の表彰式で特別表彰された。また、11月中旬に就職希望者全員が内定し、バブル崩壊後最速記録ではないかと思う。



佐藤健二氏 S49年C卒

## M 機械科

■主任 平山 賢実

この春の人事異動により、永年本校の教育発展の為に尽力されました佐竹勝行先生と岩田善一先生が退職されました。また、滝田隆介先生が聾学校へ、栗田克志先生が喜多方工業高校へ転勤されました。

後任として喜多方工業高校から大久保基一先生と玉川誠先生、福島工業高校から小田切史也先生と高橋豊先生が機械科の職員に加わりました。また、1年2組の担任として数学科より小沼雄司先生、2年2組の担任として社会科より清水裕二先生、3年2組の担任として理科より篠原宏和先生の、3名の先生方の応援を含めて総勢16名で頑張っております。

機械科実習室には昨年に引き続き、旋盤が2台更新され、新しい旋盤が合計9台並びました。これで生徒全員が新しい



い旋盤で実習を行うことが出来るようになりました。

ところで、この不況の中、進路指導は大変ですが、平成17年度の機械科の場合はそれなりの良い結果を得ることが出来ました。これもひとえに諸先輩方々のご尽力の賜物と深く感謝いたしております。

平成17年度機械科卒業生79名の進路の結果は以下の通りです。就職44名（県内19名、県外22名、公務員2名、自営1名）、進学者36名（4大17名、専門学校など19名）となっております。

さて、機械科の生徒の活躍ぶりを報告致します。

（平成17年度分）

○全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰者数

ゴールド・6名（内1名が特別表彰受賞）

シルバー・7名

○三年間皆勤・20名

※各種資格取得に対して熱心に取り組んでいる機械科の生徒の姿が思い浮かびます。

機械研修部関係

○ものづくり（旋盤部門）大会予選福島県大会優勝

○全国アイディアロボット大会予選福島県大会に2台出場

○全国電動カート創作コンテストに3台出場。総合優勝、総合準優勝、総合3位。デザイン賞、技術賞、レース賞、タイムトライアル賞の4部門を独占

○ホンダエコノパワー燃費競技全国大会に3台出場

○スターリングエンジンテクノラリー全国大会に参加

○マイコンカーラリー県大会



に4台参加

いずれの大会においても機械研修部は素晴らしい成績を残しております。土曜、日曜、夏休みを返して、毎日夜遅くまで大会で勝つロボット、勝てる車の製作・指導に当たっている先生方には、只々感心するばかりです。更に素晴らしい成績を得るために努力いたしますが、今後とも先輩各位のご協力の程をお願いいたします。

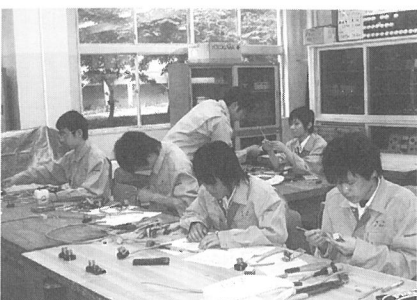
最後に全ての事に對し懸命に頑張っている機械科職員を紹介致します。

鹿目稔、白岩孝一、平山賢実、大久保基一、岩沢巖、丹治一記、小田切史也、数間一博、玉川誠、菅野幸雄、嶋巢幸江、高橋豊、今野貢です。

## E 電気科

■主任 梅宮 昭雄

今年度の電気科職員の移動は1件で、小熊常輝先生が退



職され、後任として大学卒業後2年目の半澤幸祐先生が着任されました。

先生は高校・大学と野球部で頑張ってきたけれども、会工高は野球関係者が多く、新体操の顧問として生徒の指導に当たっています。昨年度と今年度と若い先生が電気科に來ましたので平均年齢が少し若返りました。

この原稿を書いているのは6月初めですが、今年度は1年生にも第2種電気工事の資格取得指導を取り入れて、入学当初から授業と放課後の時間を使い指導しています。また2年生は今年の1月から実習の授業と放課後の時間に指導してきました。先日、学科試験を終えたところですが、今後は技能試験に向け練習をしていく予定です。なお、学科免除で技能試験だけの生徒も、少数ですが4月から練習を始め6月3日に受検しています。今年度から日程など試験の方式が大きく変わりました。

昨年度から会工高は文科省の「目指せスペシャリスト」

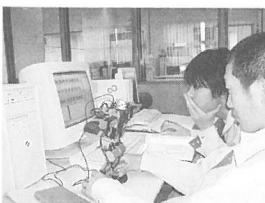
## J 情報技術科

■主任 真田 郁夫

この春の人事異動により、谷内豊先生と馬場正紀先生は喜多方工業高校へ、本田文一先生は郡山北工業高校へ転勤されました。後任として郡山北工業高校より服部良男先生、小高工業高校より今野信孝先生をお迎えしてのスタートとなりました。

さて、今年度は特に生徒募集に向けて地域や中学校へのアピールを強化することが目標となりました。昨年も資格試験（基本情報試験・初級システムアドミニストレータ試験）や各種大会（パソコン甲子園・ものづくりコンテスト・マイコンラリー・ロボット競技大会）など、多くの取り組みをしてきましたが、地域へのアピールという点では努力不足のところも少なくありませんでした。

昨年度実施した学校開放講





みました。  
今年5月に行われた春季県大会では、2回戦で昨秋の優



テニス部は3年生10人、2年生7人、1年生13人の計30人で活動しています。学校にテニスコートがないため、市内のテニスコートを使用し練習しています。部員が自転車

は遠いときで5、7キロほどにもなります。長い道のりを移動するのは生徒にとって負担が大きいですが、いつも元気に練習場所に向かっていきます。そんな毎日の部活動の中で、テニス部OBや一般の方が指導に来て下さる機会が多々あります。このことはいつも生徒の励みになっており、大変素晴らしい伝統であると嬉しく思っています。



第30回全国高校体育大会 バスケットボール部



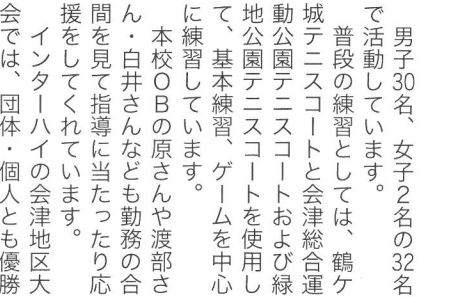
今年度のバスケットボール部は、3年生14名、2年生3名、1年生7名、マネージャー4名という構成で毎日熱心に練習に取り組んでいます。

特別に上手なスタープレイヤーがいるわけでもなく、特に大きい選手がいるわけでもないの、全員で走るバスケット」を目標としてがんば

男子30名、女子2名の32名で活動しています。

普段の練習としては、鶴ヶ

本校OBの原さんや渡部さん・白井さんなども勤務の合間を見て指導に当たったり応援をしてくれています。



して県大会に臨みましたが、残念ながら3回戦で敗退してしまいました。普段の練習で緊張感を持った練習をしていないと、県大会等の上部大会では勝てないということを、十分知らされました。今後は、練習で厳しく試合は楽しくというスタンスで頑張っていくと思います。

顧問◎中野 善司  
大塚 正幸  
鴉巢 幸江

今年度の山岳部は雄国山を目指しての雪山歩き日帰りトレーニングから始まった。前日より寒波のため大雪が降った後の道なき道であったが、檜原湖雄子沢口よりワカンを装着して生徒に雪原歩行を経験させることができた。(4月1日(土)生徒3名)



顧問◎嶋田 徳学  
菅野 幸雄  
鈴木 智子

平成18年度弓道部は、3年生8名、2年生11名、1年生14名と顧問3名で活動しています。入部時はほぼ全員が初心者で、努力した分、成長が目に見えてわかり、やりがいがあると思います。



会津地区水泳大会優勝  
大会新3つの記録



今年度、部員20名でスタートし、6月7、8日の2日間地区大会が行われました。その結果、団体では、数の方で会津高校に優勝を奪われ、9年ぶりの2位という結果でしたが、個人種目においては13種目中5種目で1位を獲得し2位5種目、3位5種目というまずまずの結果を出しました。中でも3年建築インテリA科の北條巧君が、200m個人メドレーと400m個人メドレーで大会新での1位を獲得、400mでは県高校新記録でもありました。全国大会に出場するための標準記録にあと4秒程度です。団体種

顧問◎白岩 格  
山野辺幸喜  
今野 貴之

我々柔道部は、男子18名  
女子3名、計21名で顧問の白  
岩先生、山野辺先生、今野生  
生の指導のもと毎日の厳しい  
練習に励んでいます。その地  
道な積み重ねと合宿、練習試  
合の繰り返しが実を結び、イン  
ターハイの地区予選では個人  
戦男女合わせて9階級に出  
場し、優勝2名、2位3名  
3位6名、合計で11名がベス  
ト4に入り県大会出場を果た  
すことができました。同県太  
会では男子団体予選リーグを  
2勝0敗で突破したものの、平  
決勝トーナメント1回戦で平  
南高校に敗れてベスト16、女  
子団体戦はトーナメント1  
回戦を勝ち進み、準々決勝

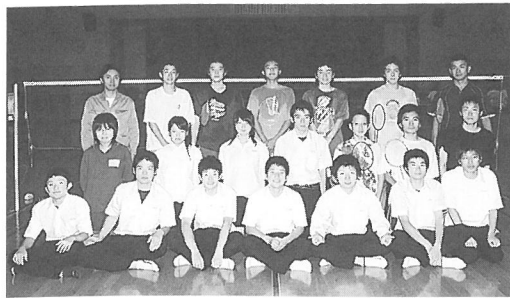
現在バレーボール部は、男子部が、3年生5人、2年生7名、1年生4名、マネージャー1名の17名で活動しています。



- ・ インターハイ地区大会  
学校対抗 優勝
- ・ 個人優勝 市川・柚木組  
準優勝 佐藤・川島組
- ・ インターハイ県大会  
(個人戦4組出場)
- ・ 団体・個人とも3回戦で敗退







## バドミントン部

顧問◎渡部 訓生  
今野 信孝

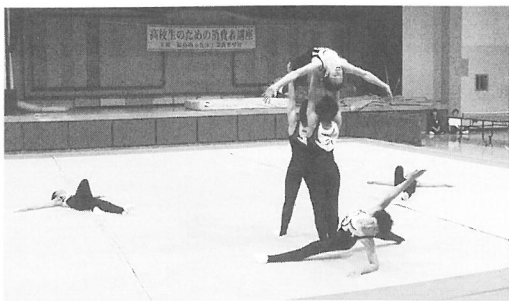
会津工業バドミントン部は創部が昭和20年と、伝統ある部活動です。そして戦績においても、県大会では過去十回と優勝し、東北・全国大会においても上位入賞を果たしたOBの方々がたくさんいると聞いています。現在、総勢19名で活動し、大会成績に関しては偉大な先輩方のまだ足下にも及びませんが、強豪会津工業復活に部員一丸となって練習に励んでいます。

その甲斐あってか、先に行われた全会津総体では、十数年ぶりに2年生が2冠するなど、今後が楽しみなチームになってきています。顧問、選手一丸となって以前のような強豪と呼ばれるチームになるよう頑張りたいと思います。

私たちボクシング部の活動状況を紹介します。平成17年度、県高校大会において3段階で優勝し、総合優勝を果たしました。さらに、東北大会・全国大会においても優秀な成績を修めました。特にライトウェルター級の佐藤大吾郎（18年度3月セラムック科卒）はインターハイで優勝する快挙を成し遂げました。先輩達の輝かしい活躍に負けないように臨んだ昨年の県高校新人体育大会では、優勝

## ボクシング部

顧問◎篠原 宏和  
増子 美樹



## 体操部

顧問◎鈴木 聖也  
半澤 幸祐

現在の部員数は選手7名、マネージャー2名の9名で活動している。この7名+2名が今年度、難関と言われた全国大会の切符を目指し練習が始まった。学校がある日は一日4〜5時間。休日には8時間を超える練習をこなした。2・3年生にとっても今までにない練習であり、また4月から始めたばかりの1年生には毎日が過酷な日々が続いたと思う。しかし選手たちは決して弱音を吐かず、ただ「全国大会出場」を目標に練習に励んだ。その甲斐あって、6月の東北高校大会ではみごと団体3位入賞を果たし、全国総体の切符を手に入れた。8月の全国大会では今まで以上の最高の演技を披露してくれることを願っている。

者2名、学校対抗では第2位という成績を修めました。

I部

ライト級 優勝  
大濱勇輔（J科3年）  
ライトウェルター級 優勝  
角田貴佳（E科3年）

II部

ライトフライ級 優勝  
歌川宗一郎（E科2年）  
フライ級 優勝  
谷井侑矢（M科2年）  
ライト級 優勝  
佐瀬 滋（K科2年）

今年度の県高校大会では、ライトウェルター級角田貴佳（E科3年）が優勝し、学校対抗は第3位でした。不本意な結果でありましたが、7月上旬に行われる県総合体育大会では悔いを残さない試合が

## クラブガイド

## 陸上競技部

顧問◎石崎 晃  
大和田好倫  
鈴木 康生

本年度は、部活動推薦の1期生を含む新入生25名を含み、総勢53名（男子44・女子9）の大部隊となった。春の高校地区大会では、204点で男子総合優勝（4年連続）を果たした。県大会では、加藤美和（3F）の100M・200M2位を含み13種目で入賞を果たし東北大会へと駒を進めた。また、トラックシーズが始まったばかりであるが、新人戦・駅伝大会でも上位大会へ駒を進めるようチャレンジ精神を忘れずに、心身の育成と人間育成の場として日々



▲東北大会400mH 1600mR

## 卓球部

顧問◎渡部 鉄仁  
海老沢康広

平成18年度の卓球部員数は3年生が7名、2年生11名、新たに1年生10名が加わり、総勢28名で活動しています。去る6月5日須賀川アリーナで行われたインターハイ県大会では、ダブルス菅家（3F）・室井（2M2）が参加しました。1回戦、対福島西高校戦では、3-0で圧勝しましたが、2回戦シード1位の帝京安積高校戦では、惜しくも0-3で敗退しました。



今後の地区総体では、2年生を中心にして団体での県大会出場権の獲得を目標に、また秋の新人戦では1年生からも県大会出場資格が取得できるように、日々の練習に励んでいきたいと思っています。また、女子の団体戦にも出場が出来る人数となり、今後の活躍が期待されます。

## スキー部

顧問◎稻生 義則  
小沼 雄司  
長谷川 司  
渡部 孝志  
増子 美樹  
鵜巢 幸枝



男子 大逆転で初V

## 剣道部

顧問◎丹治 一記  
服部 良男



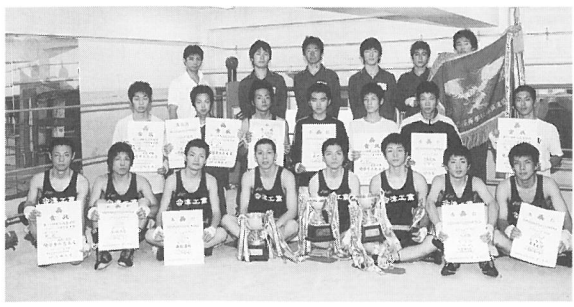
## 吹奏楽部

見事な演奏 盛んな拍手

会津工業高吹奏楽部の第12回は、日本トロンボーン協会二十回定期演奏会は十二 理事長の今井順夫氏を迎え、会津若松市の会津風雅ホールで演奏された。ステージはアパラチアン序曲で開幕し、三部構に、盛んな拍手を送った。

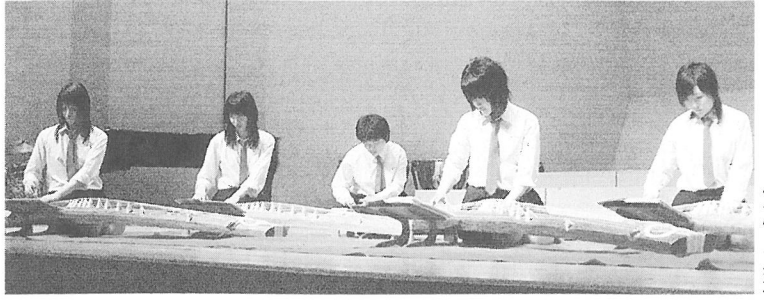


できるような日々の練習に励んでいます。



## 箏曲同好会

顧問◎鈴木美枝子  
佐藤 正道



## 陶芸クラブ

顧問◎佐藤 正道  
セラミック科職員



## 機械科研修部

顧問◎平山 賢実  
機械科職員



## クラブガイド



同窓会会報2005に対する  
協力金募金者御芳名（敬称略）

平成18年5月30日にて締切りさせていただきました。  
募金総額170万円以上 752件

昭 昭  
13 T

五  
十  
風

齊渡渡渡渡若六吉村松本保古八永東谷竹高鈴佐佐佐佐酒賓後小小小郡厨北河川小大八入及遠榎井一石猪穴赤

藤邊辺部部部菜角田越下井田志畑河卷井瀬内村橋木谷藤藤藤久山井藤藤森林林司川原戸瀬川小八木槻川藤本上重山狩澤城

美五秀 美奈子 清貞靖弘孝保俊 和一憲茂泰紘 芳明榮 善和力寛邦 重文五 昭正由紀男 正利 勢津子 由利良岩精七信次明良

中郎雄宏子 仇夫彦文男寿彦弁毅吉男治雄子一豊順雄作健久子三郎男勇幸夫良修洋孝三 家鴨子 要紀彌市雄三郎一夫廣

[illegible]

二吉小鈴五山齋村福大加加大蟻梅星平江荒室蓮荒山相中角新本長田板佐室日星武黑本洪川天遠榎猪吉高佐夏吉室押横  
瓶田平木嵐崎嶺岡田越藤藤塚川津野山川井沼木口田島田妻間峯崎橋藤井黒田川名谷島井藤田俣田橋藤井村井山田  
祐勇寛義常輝弘君昭弘正榮耕靖一義靖貞弘高忠道善信隆嘉義正好武清登孝美  
子俊俊満清治正喜司丘雄雄行大夫勝充尊吉平卓夫誠夫昭衛雄至次平桂広六男伍孝尚人美巖実博昭意夫彦盛淳淳要喜一徳

[illegible]

二 青 青 林 渡 山 神 今 日 芳 榎 岩 五 渡 田 吉 大 大 田 木 芳 玉 高 小 石 渡 戸 折 藤 渡 鈴 岩 秋 片 江 庄 宗 七 保 玉 篠 鷲 山 小 佐 小 影 大 秋 田 岩 寺 田  
瓶 田 柳 部 崎 田 井 黒 賀 山 橋 部 中 田 山 堀 中 村 賀 川 橋 菅 橋 部 田 笠 田 部 木 洲 山 桐 花 司 像 海 志 川 崎 川 田 林 藤 池 山 村 間 崎 瀨 崎 中  
一 啓 貞 節 信 忠 一 秀 儀 貞 弘 隆 嘉 勝 勝 英 節 光 明 輝 信 常 進 光 勝 龜 昭 有 辰 平 清 重 正 五 輝 忠 信  
茂 榮 治 吉 夫 一 志 喬 泉 勉 樹 崇 策 雄 彦 宏 雄 久 護 義 司 實 之 博 弘 男 助 雄 浩 男 孝 雄 一 泰 夫 精 次 一 利 美 四 郎 登 寿 雄 男 郎 繁 治 篤 文 保 孝

[illegible]

二渡三丹杉神大板渡渡坂鈴齋荒成閑鈴出佐加浅渡室坂高岸薄渡千新佐小小松佐村石五十鈴島岩石中渡室鈴高遠宮岸水木田  
瓶辻橋藤原林竹垣部部場木藤井田場木羽藤藤沼部井内橋井部葉藤野沼澤本藤上橋十嵐木影船井島辺井木木藤崎村野川  
正支正俊正芳武恒哲四士正一寛重忠修定洋寅茂吉宗喜勝昭昭芳義利孝美久博正正利俊幸昭文銀與  
人征勝明男宏淳宏夫雄雄雄志郎明明長夫主次雄于彦男雄男稔栄八郎義博市次展之謙弘浩雄敬男夫範夫男圀雄博男吾和歳咲

[illegible]

島小川大岩鈴高鈴熊赤満小磯原ハツ福羽佐遠菊加今石菅児太山島馬原猪矢箭大五十五十宮木佐小小谷佐渡山波多梨子長遠岩若長五十  
田林田竹澤木橋木田城田滝目橋賀賀藤藤地藤井川沼島田口影場俣辺内浜風風腰村々木小松山澤藤部田野嶺本嶺藤澤川谷狭五十  
茂信幸七敏芳健文栄元彦忠次義末久周三幸敬正雅新理正秀健達雄謙克洋昭菊長利謙忠進伸利春重  
彦一雄郎雄文等助夫治彦市誠伍郎二吉夫英郎男澄正博三雄文英花博昭宏男明一一美一夫二力豊剛作廣次傑雄朗夫夫生勝

[illegible]

吉角大大秋青丸大菅物宗田鈴谷長谷川千井会宗吉鈴佐大荒吉長鈴鈴佐齋今三松赤谷早金笠歌二佐蓮鈴島高齊満一申鎌長菊山  
田田堀竹山木山竹沼江像巻木沢川葉園田像田木竹堀井田川木木々藤井浦田津川山子間川瓶藤田木田橋藤田瀬島田嶺地田  
敏文利良末章宗勇忠敬信善克政健貞信重順忠雅幸祐榮恒秀仲信守龍晴静和光玄貞容浩政光堅昭勝  
信弘豊夫光恒一夫生雄治雄治哉行男讓信治次雄男一夫實之彦巖善助雄宏雄雄郎賢孝郎雄夫男雄史彦太阴平巨衛夫司温可雄

[illegible]

大和 長谷 佐野 鈴木 渡石 川斎 佐山 山佐 大渡 石吉 佐中 芳船 五要 千齋 石渡 高吉 三櫻 小山 船古 鈴遠 長谷 高白 佐小 桑金 穴佐 佐石 遠  
 和 像 木 野 藤 橋 嶋 藤 藤 野 口 治 森 部 田 原 藤 島 賀 木 井 葉 藤 田 辺 橋 田 橋 田 林 内 名 田 沢 木 藤 小 松 谷 畑 濱 藤 林 原 川 沢 藤 藤 井 藤  
 寅 次 英 好 豐 正 和 利 静 匡 健 栄 宗 正 俊 秀 光 政 和 健 充 光 鉄 稔 寛 和 昭 鎮 一 幸 善 喜 長 義 國 紀 紀 孝 和 博 広 泰  
 夫 郎 馬 和 道 剛 広 章 雄 司 二 敏 一 治 人 一 功 司 一 彦 美 一 啓 夫 雄 大 昇 二 男 男 雄 武 康 尚 作 雄 治 郎 昭 雄 博 雄 男 保 雄 優 也 利 次 道 道 男

[illegible]

梅森舟坂塚田佐川江鉄鈴新佐上渡渡八平高紺伊菊菅菅小大五十白中小海諸物窪半鈴小大五十鈴芝佐川八辺角星高佐安十渡玉小  
宮田内原藤藤島花父木城藤野辺部木田橋野藤地野家川東風屋井村柴名橋井田澤木室竹嵐木田藤口木見田橋藤田五十郎木国  
清喜昭哲辰善芳源安保芳聖昭幸五靖敏晴昭雄宗利祥英俊健俊久俊榮德璋繁昭昭正友留昭修守榮昭利久和  
志美夫雄一雄也保吉清信男治輝義部雄雄夫二三二和夫滋喬夫章二雄治雄輔三二浩仁雄額夫則則治洪三一國祐夫光夫雄進卓昌

[illegible]

栗佐真森星遠芳栗五荒渡佐佐屋栗戸鈴杉大大古佐大荒佐佐小山星田平鈴佐酒小細高関佐遠江安後赤本長神飯渡花福菊大齊  
城藤壁田藤賀城嵐川部藤藤城部木原原竹見藤竹川藤藤林崎代出木藤井山堀橋和竹藤川西藤井宮川田野部見島地竹藤  
俊隆宗哲一吉昌伝正富泰和義康孝和武邦雄四光秀治信五勝順喜孝信辰正誠正紀淳泰信正博恒  
彦宏則郎秋隆志義雄夫由之生志彦男努三隆友知明嘉仁男敏司雄助昇司勤夫貢也純清弘起二敏徹義一介之夫瀧中潔動也力

E E E E E E E E E E E E E E E E F F F F F F M M M M M M M M M M

③ ③ ③ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②

|    |     |    |    |    |    |    |    |      |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |     |     |    |   |   |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|---|---|
| 武平 | 長谷川 | 西村 | 高橋 | 冠木 | 大江 | 阿部 | 矢野 | 星長谷川 | 田中 | 清野 | 常法師 | 新藤 | 佐藤 | 栢森 | 鹿五十嵐 | 新井 | 中川 | 鈴木 | 佐村 | 指管 | 小川 | 一ノ瀬 | 中川 | 玉石 | 笠川 | 小笠板 | 涌井 | 今井 | 佐藤 | 長谷川 | 金田 | 近藤 | 高橋 | 渡部 | 滝澤 | 小佐 | 大穴 |     |     |    |   |   |
| 藤宮 | 健   | 稔  | 久  | 清  | 和  | 忠  | 昭三 | 威彦   | 慎  | 儀  | 吉   | 健  | 直  | 和  | 幸    | 賢  | 馨  | 武  | 一  | 建  | 忠  | 一   | 泰  | 寿  | 俊  | 秀   | 信  | 秀  | 春  | 新   | 佐  | 健  | 三郎 | 寛  | 三喜 | 新  | 恒  | 真太郎 | 丑良  | 安  | 善 |   |
| 亨  | 司   | 雄  | 雄  | 次  | 夫  | 男  | 三郎 | 仁彦   | 武  | 二  | 一男  | 義  | 夫  | 健  | 彦    | 弘  | 隆  | 作  | 雄  | 博  | 信  | 男   | 正  | 正  | 夫  | 一   | 雄  | 彦  | 昭  | 正   | 明  | 男  | 次  | 郎  | 寛  | 三喜 | 新  | 恒   | 真太郎 | 丑良 | 安 | 善 |

[illegible]

星 佐 齋 齋 小川 門 太 太 野 木 菅 川 大 江 岩 井 五 角 小 大 大 渡 渡 古 樋 西 田 高 鈴 鈴 佐 湯 二 中 京 稻 武 荒 渡 渡 坂 永 干 田 高 須 新 佐 酒 伊 渡 山  
澤 木 藤 藤 山 侯 脇 竹 田 村 家 口 竹 川 沢 上 風 十 柳 堀 竹 部 川 山 村 中 橋 木 木 野 山 小 松 田 瓶 村 野 藤 葉 明 辺 部 内 嶺 葉 部 橋 藤 城 々 木 井 賀 部 浦  
与 精 和 茂 米 喜 紀 平 英 庸 和 信 一 大 邦 義 孝 俊 正 藤 喜 美 一 桂 安 広 常 正 伊 武 英 正 公 敏 英 彖 敏 国  
郎 郎 郎 也 正 寿 人 男 雄 誠 治 雄 実 也 雄 義 夫 毅 武 雄 正 昇 雄 二 義 美 滋 夫 吉 健 郎 志 雄 忠 德 修 伊 佐 夫 栄 栄 義 平 弘 寿 繁 胤 悟 夫 稔 男 市 喜 健 平 男

57 E 56 E 54 E 54 E 51 E 50 E 47 E 44 E 43 E 43 E 42 E 42 E 41 E 41 E 40 E 40 E 40 E 40 E 39 E 38 E 38 E 38 E 38 E 37 E 37 E 37 E 37 E 36 E 36 E 36 E 36 E 36 E 36 E 35 E 35 E 35 E 35 E 35 E 35 E 34 E 34 E 34 E

梅川若齋佐豊菊佐室内浅田白國雅樂川荒山藤長近小大長川石讓平梨子本大室星大安阿弓星德鈴栗菅楠大棚荒松古野成日柏大五十渡山  
 津崎杉藤木島地藤井川田中石分川井内田川藤沢竹川矢野一井井矢西部田田木城沼滝木井田川口田下木越嵐部内  
 誠賢和幸昌洋正康良義健元信賢正明陽晴与信幸正俊善志重洋順龍勝芳真靖隆淳俊武誠宣正義一昭  
 史市幸郎郎吉雄一則誠一隆一眞吉喜生一史一行雄則道一朗正紘博正実三一吉美雄一夫彦一光勝夫修一昭夫良男宏郎勝寿清

[illegible]

白谷金小飯山羽中角杉小渡手代小川上本遠真樋大坂伊遠鈴高高小川岩加渡松保五十齋廣大細藤淺渡小山栗芳板兼佐目目馬  
 藤井里津子棕沢内入丸田本越松部木林島野名藤鍋山竹内東藤木久畑林島沢藤邊島志<sup>十</sup>藤山友井野井部林本城賀橋子藤黑黑場  
 利一勝厚昌義建清辰正至次良保利莊千康幸六兵永智俊政賢總信仲友一通秀芳康佐順純大好政順一  
 夫男人生輝昂一隆嘉弘啓雄勝樹男夫清幹哲之弘義剛佑郎正貢三行行介崇人聰修一朗昭聰也昭麿敬人雄世哲<sup>知</sup>博一介則文郎

[illegible]

渡田中安 安伊五古齋伊田八佐大大渡杉嶋関雪君山吉塚薄玉齋渡宮小目鈴野鈴大梅小金大渡本永植渡早笠玉佐伊堀星  
辺勢村達達藤風川藤藤代卷藤竹竹部原田澤下島内田原上川藤辺城林黒木村木橋宮林田竹部間井木部川間川藤藤井  
邦良 ヨシ 英永 雄弘達秀英英史義一良正和 利二雅由栄政光正吉光新信久勝邦憲孝公克勇伊 忠孝公友清正  
夫房勇子 隆正昭美二博一子夫光明朗康久幸治彦俊聡正郎宣比呂男志雄人雄男吉弘広夫 雄市美明哉吉雄徹英男男久治栄

ご協力・ご支援ありがとうございました。  
会報2006に対してもよろしくお願いいたします。



■本部

平成18年5月現在

# 編集後記

梨子本傑

(平成18年7月現在)

40 | 会工同窓会報No.31  
'06(平18)総会号